

第1章 1993年度岡山大学構内遺跡調査報告

1 調査の概要

当センターにおいては、大学構内における掘削をともなう工事に際して、事務局施設部企画課を通じて事務手続きを行ったうえで、発掘調査・試掘調査・立会調査にわけて調査を実施している。

これまでのところ、その調査の対象は津島地区と鹿田地区とが中心になっている。とくに、鹿田地区は周知の遺跡（鹿田遺跡）として、掘削を行う工事に際し、届け出を提出した上で対応を行っている。また、津島地区においても、新たな遺跡の確認が進んでいることから、遺跡の名称を「津島岡大遺跡」と総称し、届け出の有無にかかわらず、少なくとも立会調査を実施している。

1993年度は発掘調査2件（津島地区2件）、立会調査32件（津島地区16件、鹿田地区6件）を実施した。そのうち、発掘調査については本章でその概要を述べ、立会調査の詳細については表1に示す。

（阿部）

2 発掘調査

①津島岡大遺跡第10次調査（保健管理センター予定地、津島南地区BB～BC・10～11区）

調査の経過（図1・15）

この調査は、保健管理センター新営に伴い、1992年2月～翌1993年7月までの予定で実施されたものである。そのうち1992年度分の調査結果については、本年報10（1992年度）ですでに概述したので、ここでは1993年度分の調査で明らかになったことの概略を報告する。

1993年度分の調査は4月17日に開始し、記録的な多雨に悩まされながらも7月31日に終了した。調査面積は約400㎡で、常時2名の調査員が担当した。

層序と地形（図2）

本調査区の層序は、埋立土・基盤層を含

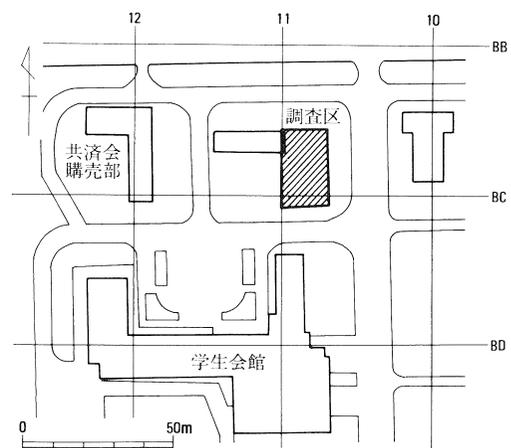


図1 調査区位置図（縮尺1/2500）

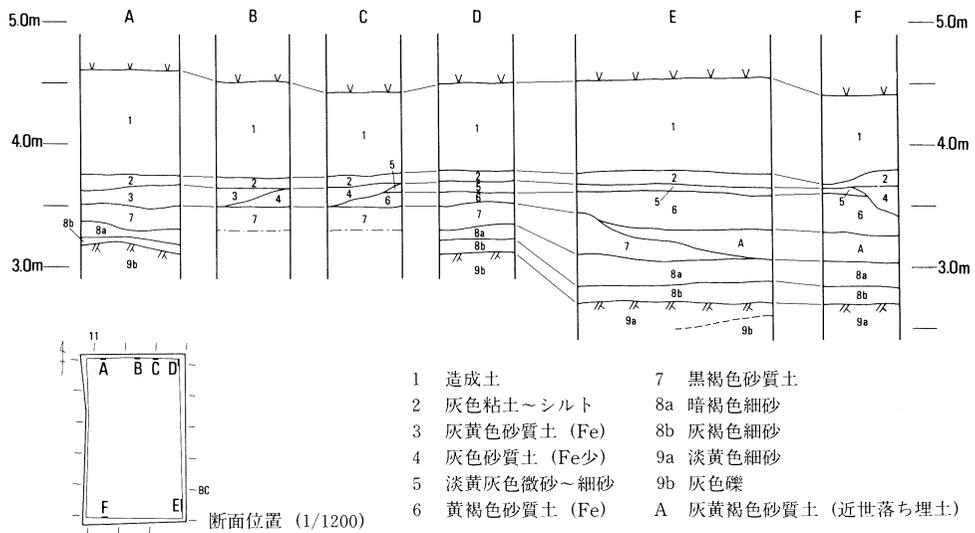


図2 土層断面図

めて大略9層からなる。そのうち江戸～明治時代に当たる6層以上については1992年度に調査を完了しており、詳細は本年報10（1992年度）を参照されたい。

1993年度に調査の対象となったのは7層以下である。7層以下の各層は、いずれも弥生～古墳時代の遺物や有機質を多量に含む黒褐～灰褐色の砂質土で、近世層の6層との層界はきわめて明瞭な不整合をなし、近世の削平・造成がこの層にまで及んだ状況が見て取れる。したがって、この調査区では近世層の直下が弥生～古墳時代の包含層で、古代～中世の各時期の層は、近世段階の造成で削平されていると考えられる。

弥生～古墳時代の包含層である7層以下は深くなるほど色調が淡く、砂質が強まる傾向が認められる。すなわち、やや粘性を帯びた黒褐色砂質土層の7層、暗褐色細砂の8a層、灰褐色細砂の8b層に分けうるが、全般に漸移的な変化であって各層の層界は明瞭でない。9層は基盤と考えられる無遺物層で、淡黄～褐色細砂の9a層とさらに下の灰色礫層の9b層からなり、場所によっては包含層の直下に9b層が露出するなど、上面にはかなりの高低差があるが、総じて南へいくほど低くなる。

検出遺構（図3・4，写真1～7）

(1) 7層上面（図3）

近世以後の造成・耕作土をすべて取り去った7層上面では、主として古代以降に属すると考えられる落ち・溝・建物などの遺構と、時期不明の炉状遺構・焼土土壌・焼土面などを検出した。これらのうちでもっとも新しいと考えられるのは調査区南端部の落ちで、肩は東西方向にやや弧を描くように走り、深さは約0.4mある。中世の溝を切り、近世の6層によって最終的に

埋められている。

中世の溝はほぼ正しく南北方位を指し、残存幅1.5～2 m、深さ30～35cmを測る。南端部を上述の下がりによって切られる。埋土中から少量ながら13世紀代前後に位置づけられる吉備系土師器碗の底部片が出土した。

古代にまで遡る可能性が高い遺構(図3)としては、まず調査区北半部を中心として、東西方向、および北北西～南南東方向に一定の間隔をおいて走る溝群が認められる。深さ5 cm前後、幅0.3m内外のごく浅い溝で、耕作の痕跡であろうか。切合関係からみて東西方向のものが新しいようであるが、形状や埋土に大きな違いはなく、全体としてほぼ同じ段階に属するものとみられる。また、この溝群と同じ検出レベルで、埋土の特徴も類似するピット群が、調査区北東部を中心に検出され、建物2棟を抽出できた。東西方向の溝が耕作痕だとすれば、それらと同時併存であると考えるのは不自然であるが、検出レベルや埋土の類似、方向の同一性などから、大まかにみて同じ時代に属するものと考えられよう。ピット内ならびにその周辺から古代後半(平安時代)に属する黒色土器碗などの断片が出土していることから、これらはその時期の遺構である可能性が高い。

炉状遺構・焼土土壌・焼土面は、調査区

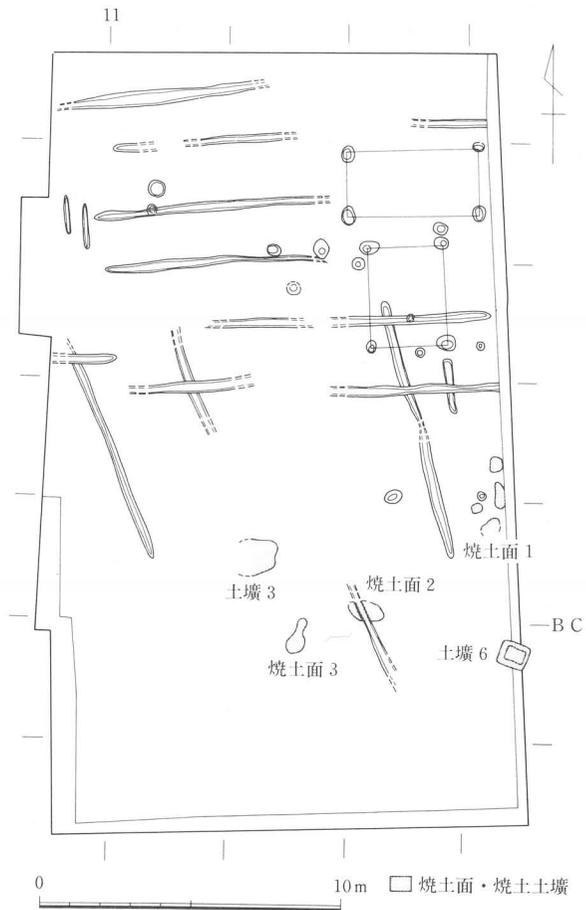


図3 7層上面遺構平面図 (1/250)



写真1 土壌6 (炉状遺構)

の南東部を中心に検出された。そのうち土壌6（写真1）は、1.0m×0.8mの整った長方形を呈し、検出面からの深さ0.3mのレベルに厚さ約5cmの木炭層があり、それよりも上部の壁は熱によって硬く赤変していた。土壌の底は木炭層の下約10cmにあり、さらにその下部にピット状の掘り込みがあるが、これはこの土壌と一体のものか否かは不明である。土壌3は長径1.4mの不整四角形の掘り込みで、埋土中層に焼土塊が集中するが、壁は焼けていない。焼土面は大きく見て3箇所あり、東端の焼土面1ではその直上で鉄釘を検出した。これらの炉状遺構・焼土土壌・焼土面は検出レベルがほぼ一致しており、大略同じ段階のものである可能性が高い。焼土面2の埋没後に上述の耕作痕と思われる溝が形成されていることから、この溝を古代後半のものともてよければ、それよりも古い時期に属すると考えられるが、これ以外に年代を確定する材料としては、焼土面1に伴う鉄釘の形状の検討結果によるほかはない。なお、周辺からは数個の鉄滓が出土しており、今後の分析によって、これらの遺構の性格を判断する一助としたい。

としたい。

(2) 8～9層上面(図4)

7層は有機質を含む黒褐色土層で、上述の、比較的新しい時期の所産と思われる明褐色の埋土をもつ遺構以外は、正確な検出がほとんど不可能であると判断した。したがって、適宜掘り下げを行いつつ精査を重ねることにより、以下に述べる弥生～古墳時代の遺構の大半は8層ないし9層で検出される結果となった(図4、写真2)。

まず、古墳時代後半の遺構としては、調査区北東部に竪穴式住居2棟がある。住居2は検出面からの深さ約0.2m、長径約6m、短径約4.5mの隅丸長方形を呈する。柱穴は、南東部ではかろうじて認められたが、北西部は床面が9b層の礫となっており、検出できなかった。北東辺中央に竈状の掘り込みと後方へ伸びる

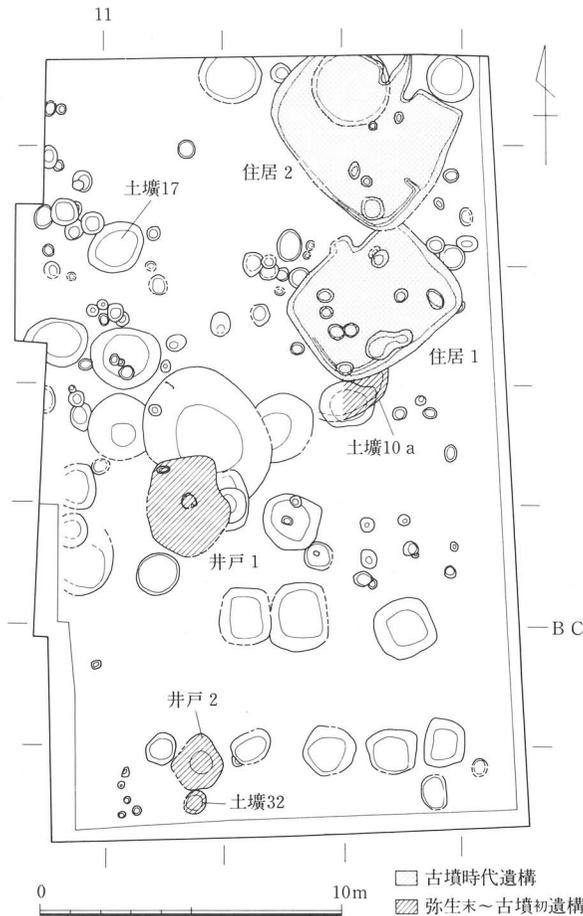


図4 8～9層上面遺構平面図 (1/250)

煙道状の溝があり、焼土・炭が濃密に認められた。ただし、粘土などで構築された本格的な竈ではなく、壁面を掘り窪め、袖部を削り残して整形した程度の簡素な施設である。床面中央部にも地床炉状の明確な焼土面が検出された。床面に伴う遺物はないが、埋土中から6世紀末～7世紀初頭の須恵器片、土師質甕（または甗）の把手などが出土しており、住居2はこの時期に属する可能性が高い。これに南接する住居1（写真3）は、検出面からの深さ約0.2m、長径5m、短径約4.5mの隅丸長方形で、4本の柱穴をもち、掘り換えの痕跡が認められる。この住居にも北西辺中央を掘り窪めた程度の竈状遺構があり、そこから土師質甕1個体前後と焼土・炭が出土した。他の遺物としては、いずれも最初の床面から5cm前後浮いた状態で、5世紀末頃の須恵器杯・高杯・蓋・甕等および土師質甕（写真4、図5-1～5）がある。この遺物出土レベルは、平面としては明確に認識し得なかったが、廃絶時の床面を反映している可能性がある。

弥生時代末～古墳時代初頭の遺構は、調査区中央部より南に広がる。井戸1（写真5）は検出面での長径3.3m、深さ2.5mを測る。掘り方は上半部が漏斗状、下半部は筒状を呈し、木製井戸枠をもつ。井戸枠は、丸太を縦割りにしてくり貫いた部材を4つ組み合わせたものであるが、部材の幅や径がまちまちであるために互いに密着せず、ずれや土砂の崩落を防ぐために、要所

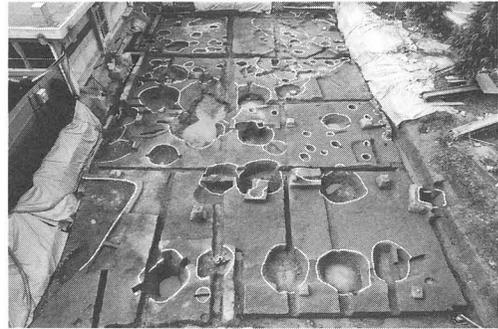


写真2 8～9層上面遺構（南から）



写真3 住居1（南東から）



写真4 住居1土器出土状況



写真5 井戸1（南から）

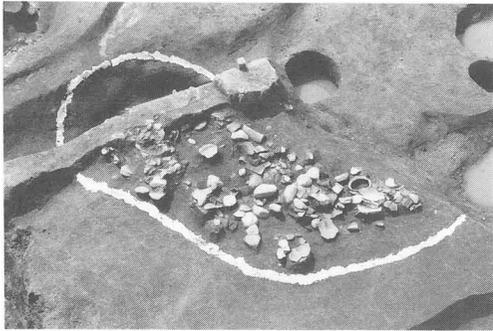


写真6 土壙10a 土器出土状況



写真7 土壙17土器出土状況

に丸木杭2本と木製案(テーブル)を転用した裏込め材を配している。使用時の漸次堆積を示す埋土下層中からは甕等の土器断片が、埋立土を示す埋土上層の直下からは、おそらく廃棄時の儀礼に関わると考えられる完形の小型短頸壺が出土した。

井戸2は検出面での径約1.4m、深さ1.1mの素掘りの井戸である。周囲にはこの時期の土器が多数検出されたが、遺構として把握しえたのは完形の壺を出した土壙32のみである。その他、調査区中央部に、この時期の土器片が密集する浅い土壙10a(写真6)があったが、前述の古墳時代住居や中世溝によって大きく削られていた。

弥生時代後期初頭の遺構は、大半が土壙(写真7)とピットで、調査区のほぼ全面

に広がる。土壙は40基近くあり、直径・深さとも数10cmのピット状の小型のものから、直径4m、深さ1mにもおよぶ大型のものまである。またその形状には、ほぼ円形のもの、隅丸方形のものがある。調査区北東隅・中央西寄り・中央南東寄り・南辺沿いの4箇所程度に分かれて群在する傾向をみせるが、中央西寄りのものの一部に前期末の土器片を含むものがあるほかは、大半が後期初頭の単一時期に属する。土器の出土量は土壙により多寡があって、中央西寄りの大型で円形のものには概して多量の土器が一括配置あるいは廃棄された状況を示せる場合が多いのに対し、南寄りの隅丸方形のものは概して土器の量が少ない。土壙の用途・機能の特定は困難であるが、貯蔵施設、廃棄壙、水溜めなどが考えられる。出土土器には壺・甕のほか高杯・器台・ミニチュア甕など祭祀的色彩の濃いものも目立つ。

弥生時代前期末の土器片は、調査区の西半分に散見され、とくに西辺に近づくほど多い傾向がある。西辺の土壙のいくつかはこの時期の遺構である可能性もある。これらの点から判断して、調査区西方にこの時期の遺構が広がる公算が強い。

出土遺物(図5)

生活址の調査ということで、土器類を中心に多量の遺物が出土した。これらのうちもっとも多量を占めるのが土壙群から出土した弥生土器である(6~8)。大半は弥生時代後期初頭に属するもので、甕・壺・鉢・高杯・器台など各種がある。なかでも、土壙17(写真7)出土



番号	種類・形式	法量 (cm)			形態・手法の特徴ほか	色 調	胎 土
		口径	低径	器高			
1	須恵器 杯蓋	12.5	-	5.0	天井部外面を回転ヘラケズリ、反時計方向。その外は内外面回転ヨコナデ	淡灰～淡紺灰色	細砂少、概ね精良
2	須恵器 杯蓋	12.8	-	4.8	天井部外面を回転ヘラケズリ、反時計方向。その外は内外面回転ヨコナデ	淡灰～淡紺灰色	細砂僅、精良
3	須恵器 高杯	10.8	8.8	9.5	杯部外面下半を回転ヘラケズリ、反時計方向。脚部内面上半は静止ヨコナデ+オサエ	淡青灰色	細砂僅、ごく精良
4	須恵器 甗	9.9	-	10.5	胴部径10.2cm。胴部下半を回転ヘラケズリ。透孔下縁に小欠損。胴部上半灰かぶり	暗灰色	細砂少、概ね精良
5	七師器 甗	-	-	-	胴部内面オサエ。外面タタキキタテハケ。風化のため詳細不明。口縁端部は内外面に鈍く肥厚。内面ヘラケズリ。頸列点文	淡橙～淡赤褐色	細砂含むが均質
6	弥生土器 鉢	18.8	7.9	17.5	胴部外面ヘラミガキ。下半タテ方向、上半ナメ方向	灰橙褐色	細～粗砂含み、粗い
7	弥生土器 高杯	26.0	16.9	22.9	杯部内外面に狐状ミガキ。外面7単位。脚外面下位にノ字状のへ描き沈線5～6条ずつ15単位	灰橙褐色	細砂少、概ね精良
8	弥生土器 壺	9.0	5.1	19.9	五脚文を矢形。図示部分以外も淡く朱彩。外面は丁寧なミガキをし光沢を帯びる。	灰橙褐色	細～粗砂含み、粗い

図5 出土遺物 (1～5:住居址1、6～8:土壌17)

の、赤色顔料で文様を施した完形の細頸壺（8）などは注目すべき資料である。また、祭祀的色彩が強いミニチュアと考えられる小型の甕・壺、あるいは分銅形土製品なども含まれる。さらに少量であるが、弥生時代前期末の土器も出土した。多条のヘラ描き沈線をもつ甕などが中心である。井戸および土壇に伴う弥生時代末～古墳時代初頭の土器もまとまった資料であり、この中には山陰など他地域の系統を引く土器も含まれるようである。また、古墳時代後半の住居1（写真3）からは、須恵器と土師器が共伴出土した（1～5）。平安時代、鎌倉時代および江戸時代以降の土器片も、わずかながら発見された。

石器類は、製品はほとんどないが、サヌカイトの剝片が調査区各所から見つかっている。木製品には、井戸枠と、その部材として転用された案（テーブル）がある。また、時期不明ではあるが、鉄に関連する作業の遺物として、鉄滓と鉄釘が発見された。

調査成果

本調査地点は、津島地区の中でも遺構・遺物の密度が高い区域に当たっており、発掘調査によって多くの知見が得られた。弥生時代後期初頭を中心とする土壇群は、この場所が住居のある集落の中心部からはやや外側の貯蔵あるいは廃棄のためのエリアであったことを示す。弥生時代末～古墳時代初頭には、井戸の存在から、この場所がかなり集落の中核部に近い部分に当たっていたと推測される。古墳時代後半期には、住居2棟が発見され、この場所が集落の中核域となったことが知られる。以上のように、津島地区内でも比較的高燥なこの場所が、遅くとも弥生時代前期末以後、何度かの空白期間はあるが、ほぼ継続して人々の生活の場となっていたことが判明した。また、古墳時代以降、おそらく古代以前と考えられる時期に属する製鉄もしくは鍛冶関連の遺構・遺物は、この場所で鉄に関わる生産活動が行われていた痕跡を示すものとして注目される。

遺物では、弥生時代後期初頭、弥生時代末～古墳時代初頭、古墳時代後半の各時期の土器がそれぞれまとまった資料であり、多くが同時使用を示す一括の状態で見られたため、土器の組み合わせや型式変化を明らかにする上できわめて貴重である。とくに弥生後期初頭の土器は量が豊富で、その出土状況も土壇内に廃棄または安置された様子を示しており、当時の祭祀行為を復元する手がかりとなりうる。また、弥生時代末～古墳時代初頭の井戸から発見された木製井戸枠と案（テーブル）は、当時の木工技術を知るための重要な資料であろう。

以上のように、本次の発掘調査は津島地区では初めての生活域の調査であり、既往の調査で確認された水田域の状況なども総合することによって、当時の生活領域やその歴史的な変遷過程の復元が可能となろう。土器などの遺物も豊富に得られ、今後の研究におおいに寄与するものと期待される。

（松木）

②津島岡大遺跡第11次調査（情報処理センター予定地，津島北地区）

調査の経過

本調査は情報処理センター増築に伴って実施されたものである。調査地点は埋蔵文化財調査研究センターの北側隣接地点（図6）で、1987年に本調査に先立って行われた試掘調査⁽¹⁾では、古代、中世から弥生時代にいたる水田土壌の堆積と若干の遺物が検出された。また地表下2,3mには津島地区で特徴的に認められる弥生時代前期から縄文時代後、晩期に堆積したと考えられる黒色土が確認されており、当該期の遺構、遺物の検出も期待された。

発掘は調査区域内に4mのグリッドを設定し、各ラインの東西列にアラビア数字を南北列にアルファベットの大文字を用いて各グリッドを呼称した。また調査区のほぼ中央で直交する土層観察用のベルトを残し、土層堆積状況を確認しながら掘り下げを行い、水田土壌から出土した遺物は層毎に、黒色土を掘り込んだ遺構およびその周辺から出土した遺物については原位置と層序を記録して取り上げた。

調査は9月14日より開始され、1月11日に黒色土下面の精査を行いほぼ当初の調査期間内で終了した。調査面積は640㎡であり、調査員2名が担当した。

層序と地形

土層は調査終了面にあたる黒色土下部までを12枚に分層して調査をおこなった（図7）。これらのなかで遺構の確認された面は近世にあたる3層上面の畑の畝

（写真8）と10層（写真9）、11層上面の古墳、弥生時代

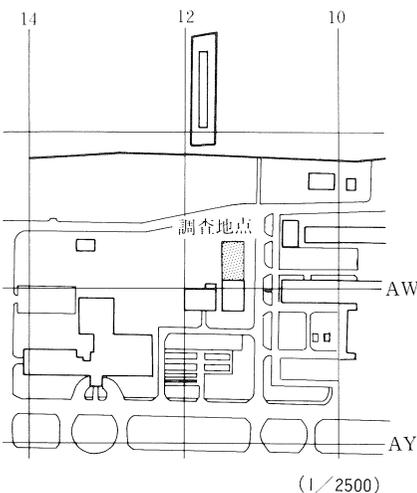


図6 調査区位置とグリッド配置図

代の水田および、11層上面の弥生後期と同層中位面（縄文時代後期）である。11層上面と11層中位面に確認された遺構は、竪穴住居とそれに類する居住遺構および土坑である（写真10）。土層の堆積は古代から近代にかけては緩やかに北側に傾斜しており、9層以下の古墳時代以前では調査区の南東コーナー付近を最高所にして、北西方向に緩やかに下る。大きくみれば北側に低くなる地形は、試掘や立会い調査等で図書館北方に推定されている湿地⁽²⁾へとつづくものと思

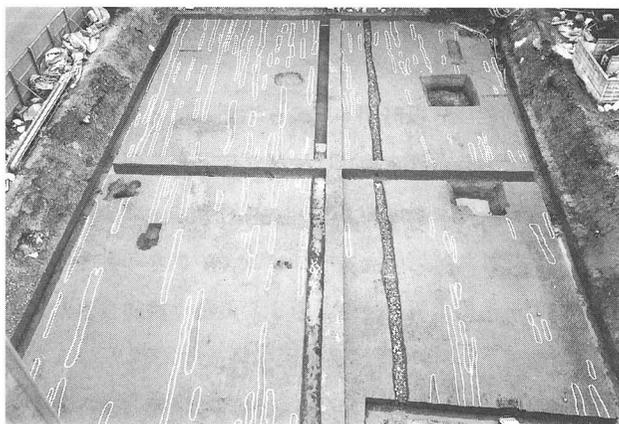


写真8 2層上面軟状痕跡完掘状況(北から)

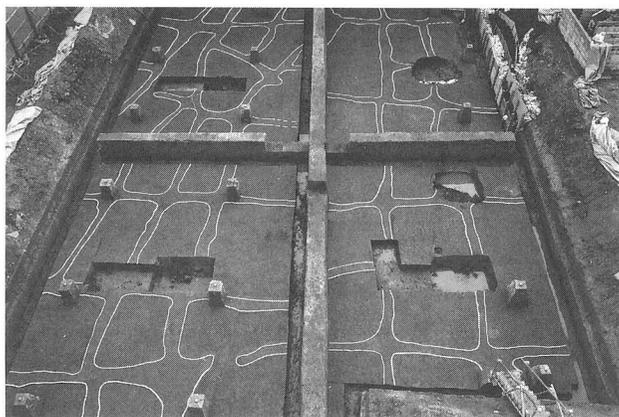


写真9 11層上面水田遺構完掘状況(北から)

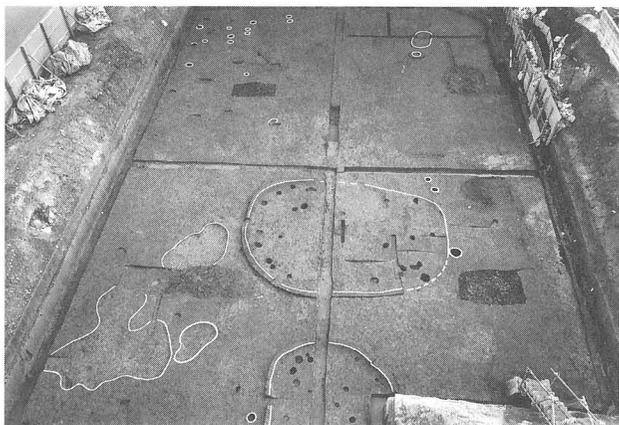


写真10 11~13層の遺構完掘状況(北から)

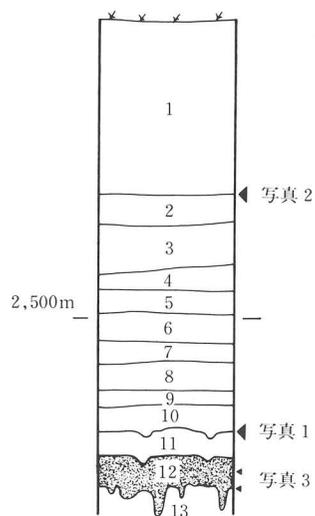


図7 標準土層堆積図

土層説明

- 1 造成土
- 2 青灰色粘質土
- 3 暗黄褐色微砂土
- 4 暗青灰色粘質土
- 5 " (4 > 5 明度)
- 6 暗黄灰色砂質土
- 7 暗青灰色粘質土
- 8 暗灰褐色砂質土
- 9 暗灰色砂質土
- 10 暗灰色粘質土
- 11 黒色土
- 12 暗黄褐色粘質土
- 13 黄褐色砂質土

われる。この推測が正しければ、本地点は沖積地の微高地の最高所より幾分低い位置に当たることになる。

検出された遺構と遺物

3層上面では南北方向に走る畝状の痕跡と拳大の礫を充填した暗渠状の遺構が方位を同じくして検出された。これらは津島岡大遺跡の各地点において検出されている耕作面と同様のものであろう。ただし暗渠の構築は初見であり、これらは耕地の区画や低地部における水はけなど、当地点の地理的な特性を反映したものかもしれない。

4層から8層は近世から古墳時代にかけての遺物をごく少量ふくみ、酸化鉄やマンガンの沈着面を形成する水田土壌であるが、面的な精査により水田畦畔などの遺構を確認することはできなかった。9層は砂質に富む層で、洪水などによる自然堆積層であり、直下に本層に覆われた水田畦畔が比較的良好な状態で検出された（写真9）。水田面は調査区の南東コーナー付近を最高所として北西に緩く下る傾斜を示し、基本的には南北方向に長軸をもつ小区画の構成をもつ。水田面から出土した僅かな遺物から判断する限り、構築時期は古墳時代と推定される。また本層下の11層上面にも弥生時代後期の遺物を出土する、ほぼ同様の構造をもつ水田遺構が検出されている。この水田面には調査区中央に不整形の窪みが検出され、内部の土層が水性の堆積構造をもつことから、池状の窪地と推定された。

11層は直上の水田遺構の構築により上半部は削平され、上面から風化の著しい弥生前期の土器が僅かに出土した。11層上面の畦畔と耕作面の除去後に全面の遺構確認をおこなったが、この時点で調査区北側で、長楕円形の落ち込みを確認した。位置は11層上面の池状の凹地にあたる部分で、土層の堆積を確認しながら注意深く掘り下げた結果、東西に長軸をもつ楕円形のプランが確認され、床面の中央部に火床面が発見された。遺物は縄文土器の細片を混じえるが、弥生中期の破片が見られ、層位的にも弥生時代以降のものと判断された。構築面は弥生後期の水田面の構築により失われているが、覆土の観察から11層より上層に本来の構築面が存在したことが窺われる。覆土は池状の凹地の形成により薄いですが、焼土粒や木炭粒を多く含み、プランの確認は比較的容易であった。また床面的一部分からは炭化材が検出されたが、住居の部材か否かは判断できなかった。この部分の床面は部分的に焼け込んでいるが、柱材などの検出もなく、焼失住居とは俄に判断できない。

上層の水田面における池状の凹地と、この遺構が位置を同じくするのは、遺構の埋没途中における凹地がそのまま水を蓄え、水田のなかに取り込まれたものと推測すると、遺構の時期や新旧関係から矛盾はしない。

またさらに、11層の調査中に本層上面に構築面をもつ楕円形のプランが確認された。北半分は調査区外にのびるが、この遺構の覆土中位と床面付近からは縄文時代後期の土器片とサヌカ

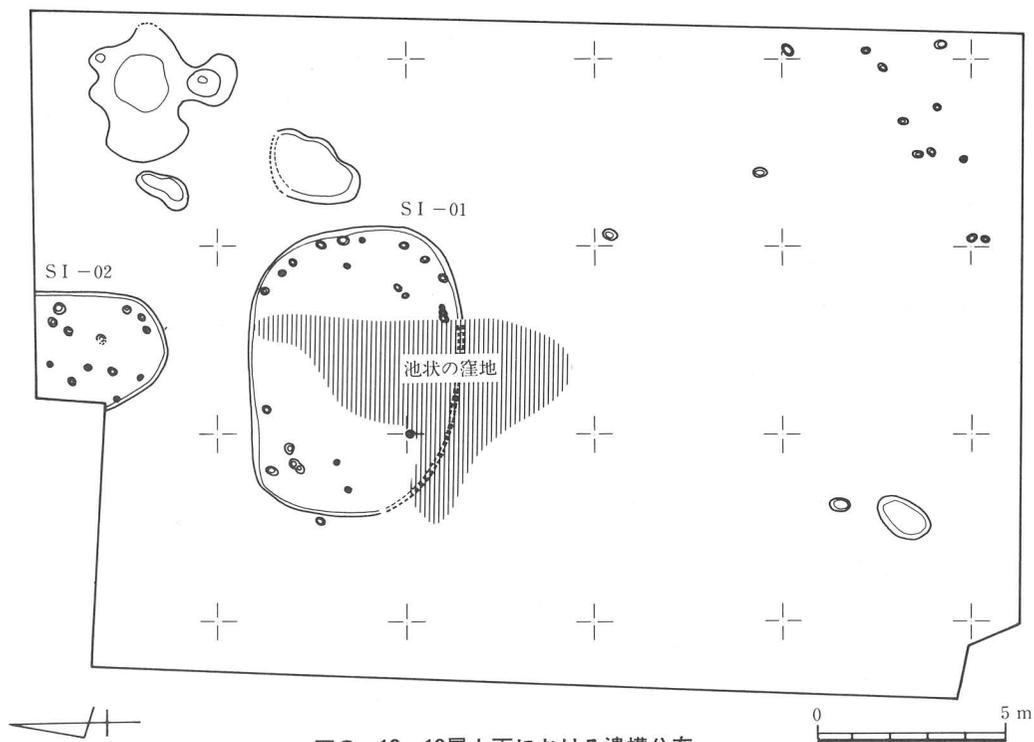
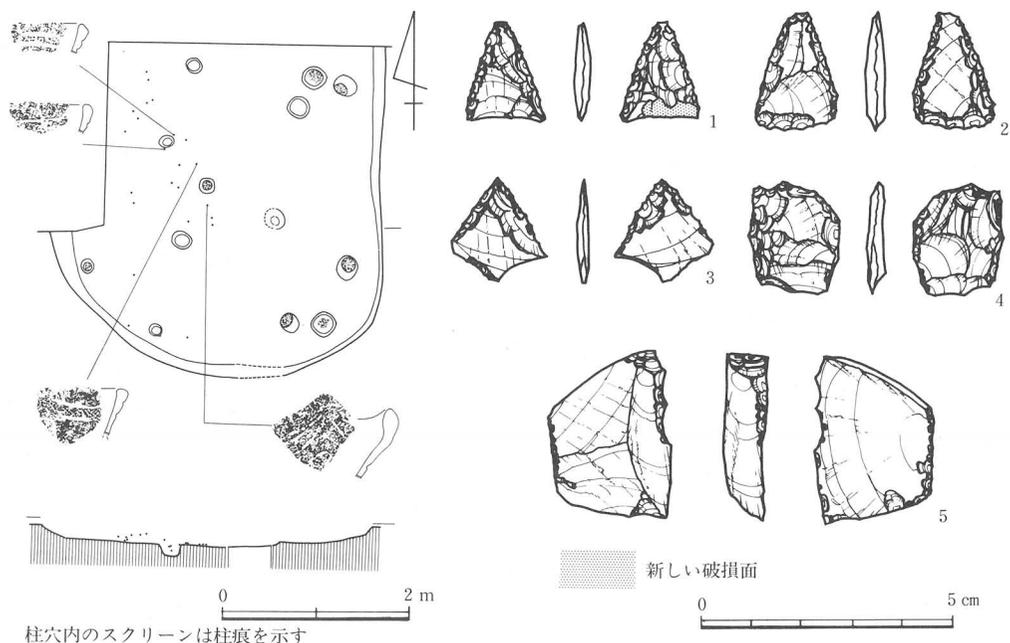


図8 12~13層上面における遺構分布



柱穴内のスクリーンは柱痕を示す

図9 SI-02 竪穴状遺構と周辺出土遺物

イトの剥片が出土した。先述したように、本来の11層上面は水田構築のために掘削されており、遺構は残存する11層最上面から確認できた。しかし遺構の覆土中には本来の黒色土の上位部分と考えられる黒味の強い土層が堆積することや、覆土の土質がいずれも11、12層を基調としており、弥生時代以降の土層を混じえない点は、本遺構の時期を層位的な観点から示唆するであろう。11層中からはこの遺構の位置する調査区の北側より、石鏃とその未製品や剥片、残核が比較的多く出土した。こうした状況から、本地点の11層中位面付近あるいは以下は、縄文時代後期の生活面に相当し、この面を中心にして石器製作を伴う居住活動が展開されたものと推測できる。

この他に12層上面で多数の落ち込みを確認した。これらは半截して覆土や形状を観察したが、大半が植物等による攪乱であり、人工的なものと考えられるものは、柱穴状のピット群と5基の土坑のみである。これらはいずれも覆土の状態から11層に構築面をもつものと判断されたが、僅かな土器片以外に出土遺物はなかった。

調査の成果

今回の調査で検出された遺構や遺物は多くはないが、遺構の性格から本地点における土地利用形態が縄文時代後期から弥生時代中期にかけての居住域から、それ以降の水田などの生産域へと変化することが推定され、沖積平野における微高地の利用形態を考える際の興味深い知見を得ることができた。また11層（黒色土）中における縄文時代の遺構と遺物のあり方は、当該期の居住地点の性格を知る上で興味深い。サヌカイトの微小な剥片や石鏃未製品の分布状態は、この地点における石器製作を示唆するが、粘質の強い土層中に包含されていたこれらの遺物がどれくらいの回収率を示すのか、その検出率は他の調査事例から推しても高くはないであろう。今後の更なる調査方法の開拓により微細な遺物やより多くの情報の回収に努める必要があろう。

なお、ここで調査成果としてまとめた内容は、基礎的な整理の終了した段階での概要であり、今後の分析によりその内容に一部変更が生ずる可能性もある。詳細な事実関係は正式報告に譲りたい。

(阿部)

注(1) 『岡山大学構内遺跡調査研究年報』5, 1987, 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

(2) 『岡山大学構内遺跡調査研究年報』10, 1993, 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

3 試掘調査

今年度の岡山大学構内の試掘調査は1件であった。場所は津島南地区、農学部農場である。以下に述べる調査により、津島岡大遺跡の最西部付近の様相について、重要な知見を得ることができた。

①農学部汎用耕地設置工事に伴う試掘調査（津島南地区 BE・BF 22・23区）

調査の経過

農学部農場に汎用耕地（温室）の設置が計画されたことに伴って、埋蔵文化財の有無を確認し、発掘調査の必要性や方法を検討する目的で、試掘調査を行った。すでに、この箇所の北西約150mの国際交流会館⁽¹⁾、南方約100mの農学部農場施設の新営に伴う試掘・立会調査の結果、一帯が低湿地であったことが判明していた一方、東方約200mにある農学部遺伝子実験施設地点では、1991年の発掘調査（津島岡大遺跡第8次調査⁽²⁾）において遺構や遺物が発見され、生活・生産域が広がっていた状況が明らかになった。したがって、それらのちょうど中間に当たるこの場所は、津島岡大遺跡の生活・生産域の範囲とその最西部の様相を把握するうえで重要な箇所であるとの予測がなされた。

温室の設置が計画された地点は、農場施設の建物の北方約100mの箇所で、工事以前は水田として使われていた（図10・15）。敷地は、東西約56m、南北約46mの長方形の範囲である。面積が広いために当初は数カ所の試掘坑の設定を予定したが、敷地の北東隅および南西隅の2ヶ所の掘削・調査によって、土層や埋蔵文化財の状況についての把握は十分であると判断されたので、結果としては、この2ヶ所の精査にとどめた。調査方法は、約2×2m、深さ1.5mの大きさに機械掘削し、その断面を精査・記録するという方法を取った。調査は1993年12月6日～7日にかけて行い、調査員1名が担当した。

層序（図11）

調査地の標高は、水田面で約2.4m、畦道部分で約3.2mを測る。予定地北東端にTP1、南西端にTP2の、2箇所の試掘坑を設定した。TP2は畦部分から水田面にかけて設定したもので、1層は水田耕作土、2層は畦道を設営した際の盛土とみられる。3層は津島地区のほぼ全域に広がる青灰色粘土で、明治時代の耕作土であろう。4～6層も津島地区の調査で近世の耕作土として捉えられている層に対応するものと考えられ、鉄分の沈着をみる。このうち4～5層は畦道部分の直下にしかみられず、現在の農場水田が、近

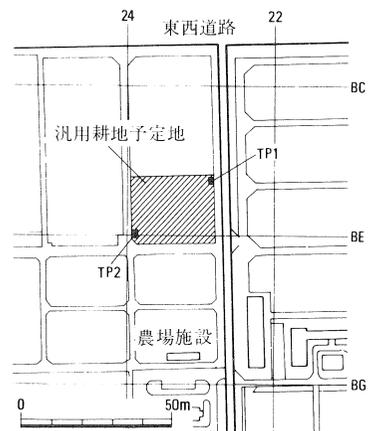
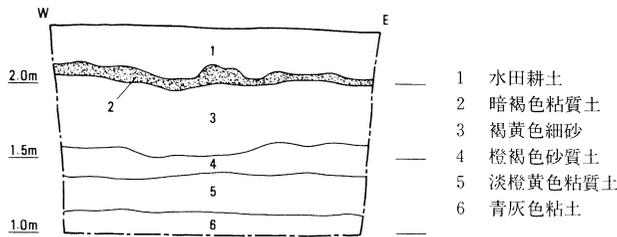
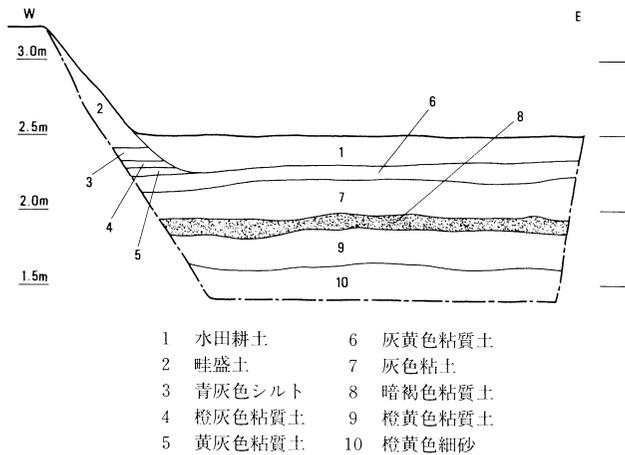


図10 試掘地点位置図 (1/2500)

< T P 1 >



< T P 2 >



世層を大きく削り込む形で耕作されていることが明らかになった。7の灰色粘土層は、津島地区で中世層とされるものに似る。その下の8層は暗褐色粘質土で、いわゆる黒色土と呼ばれる縄文晩期～弥生前期の堆積土に類似した特徴をみせる。7層との層界はきわめて明瞭で、8層の上に不整合の状態⁽⁴⁾で7層が堆積したかのような状況を示す。9層は津島地区の比較的高い部分の基盤層としてよくみられる橙黄色粘質土、10層はそれよりも砂質を帯びた層で、ともにベースとみなされよう。

図11 試掘調査土層断面図 (1/50)

北東隅の水田中に設定した

T P 1でも、状況はほぼ同じである。ここでは現在の水田耕作土である1層の直下に、T P 1の8層に相当する2の暗褐色粘質土層がみられ、耕作によって深く削り込まれている状況が見て取れる。その下にはベースと考えられる3層の褐黄色細砂があり、以下4層の橙褐色砂質土、5層の淡橙黄色粘質土、6層の青灰色粘土と、粘質とグライ化の度合いを強めながら水性堆積が続く。

断面や揚土内の精査にもかかわらず、遺構・遺物は検出できなかった。なお、両試掘壙とも、1日で壙底に数十cmの深さに溜まる程度の湧水がみられた。

まとめ

農学部農場から国際交流会館にかけての付近は、津島地区内の微高地部分に特徴的な、いわゆる黒色土の形成が認められないことから、一帯が低湿地であったと考えられていた。しかし、今回の調査地点では、その黒色土に類似した暗褐色粘質土層が認められ、これまでに調査された箇所とは様相を異にしている。

この近隣で黒色土の存在が確認されているのは、東方約200mの農学部遺伝子実験施設地点で、1991年の発掘調査時に、縄文後期～弥生後期、および古代を中心とした遺構・遺物が発見

され、比較的安定した微高地状の部分に該期の生活域の一部が及んでいた状況が明らかになった。その調査区の西半から始まる微高地斜面で確認された黒色土と、今回の試掘箇所黒褐色粘質土とが一連のものであるかどうかは不明であるが、前者がさらに西にかけて広がる状況を見せること、あるいは両者のレベル差などから判断して、その可能性は低くないといえよう。ベースの高さは遺伝子実験施設が2.2m、今回の試掘地点が1.8～2.1mと、西に向けてやや低くなっていると考えられるが大差はない。さらに西方の国際交流会館地点では、ベースは1.8～2.0m弱、南方の農場施設地点でも詳細は不明であるがほぼ同程度の高さのみられ、これも大差はないがさらに少し低くなっている状況が読み取れる。以上の諸点から、本地点は、農場以西に広がっているとみられる低湿地の中でもわずかに高い部分と判断され、遺伝子実験施設地点から舌状に西に伸びた微高地の末端に当たる可能性も想定されよう。

遺構・遺物が認められないことから、本地点は、津島岡大遺跡の恒常的な生活・生産域からはやや外れた場所に当たると推定される。ただし、黒褐色粘質土の直上に、なかば不整合ともいえる形で、中世に属する灰色粘質土の厚い水平堆積が載る状況は注目され、人為的な造成の痕跡である可能性も考えなければならぬ。とくに、西方の国際交流会館地点で、ほぼ同じレベルで中世と考えられる土器片の出土が確認されている点、これより東方の津島地区一帯で中世にかなり大規模な造成が行われたことが判明している点などを考慮すると、中世の造成客土が、この西方低湿地帯に及んでいた状況も想定しておく必要がある。（松木）

注（1）『岡山大学構内遺跡調査研究年報』6，1989年，29～30頁

（2）『岡山大学構内遺跡調査研究年報』1，1985年，25～26頁

” 5，1988年，36頁

（3）『岡山大学構内遺跡調査研究年報』9，1992年，1～6頁

（4）ただし近隣の遺伝子実験施設地点の発掘調査（注3）では、この層に相当する可能性がある層で縄文後期土器片の出土をみる。

4 立会調査

①津島地区

本年度の津島地区の立会調査は、事業別にみて16件、総計34箇所へのぼる。水銀灯やバックネット基礎などのように、寸法は小さくとも深い掘削を要する工事が相次ぎ、結果として、かなり深い部分の層位についての知見を得ることになった調査が多かった。

まず調査16～19は、本年度前半に発掘調査を完了した保健管理センター用地に接する部分で、同様の層位が確認され、発掘調査範囲外へも高い部分が広がっていることが判明した。

調査23では、黒色土あるいはその2次堆積土と考えられる暗灰褐色土が調査墳の北半に認められ、それを切る形で南半部に向かって落ちる堆積が認められた。この層は土層関係からみて古代に属する可能性が高く、条里に関する溝の北側の肩に当たっている可能性がある。地割り

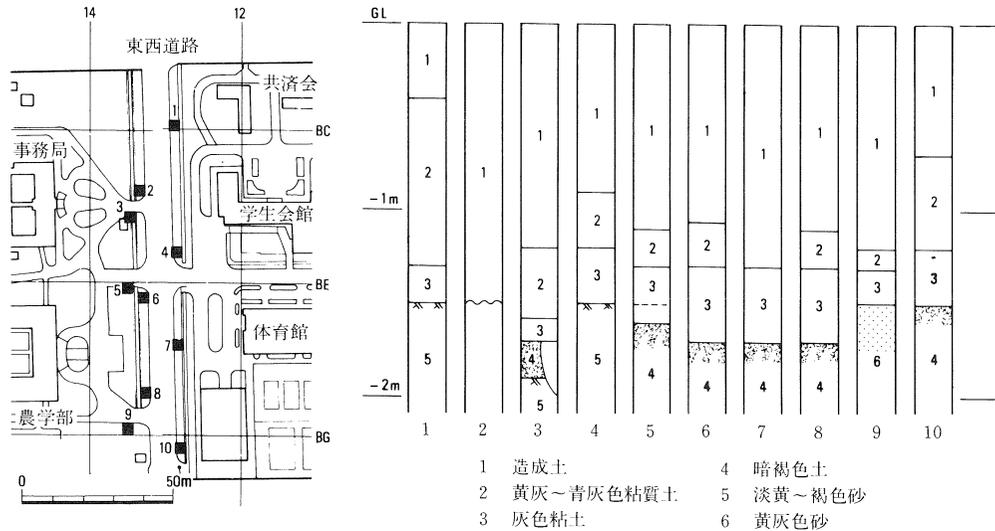


図12 調査33の位置 (1/2500) と土層柱状略図

の検討から、すぐ南を西流する座主川の現河道沿い辺りに坪境の溝があったと推測されることも、それと符号しよう。また、縄文晩期の可能性のある土器片が発見されており、それ以外の時期の遺構も付近に存在する公算が強い。

調査28・33・34 (図12) では、南北道路沿いの土層の状況が明らかになった。図12の1・4地点は基盤層(5層)が高く、直上に中世層(3層)があり、いわゆる黒色土に相当する可能性がある黒褐色土層(4層)は削平されている様子である。保健管理センター地点と一連の微高地の続きと考えられよう。5～8・10地点では黒褐色土層が認められ、それよりやや低い部分と考えられる。9地点は黒褐色土層が認められず、さらに低い部分あるいは河道などの可能性が考えられる。全体の趨勢としては、今回の範囲の北端は東から延びる微高地の続きに当たり、南西に向かってやや低くなるという地形が想定できる。

調査39～41では、津島南地区東端部の土層について知見が得られた。ドリルによる掘削のため、壁面の観察が困難で詳細をつかみかねたが、野球場の東辺・北辺の付近は、ほぼ全面にわたって黒色土が存在する状況が見て取れる。

②鹿田地区

鹿田地区では、事業別にみて6件、総計12箇所の立会調査が行われた。造成土内とどまる浅い掘削が多かった。調査49では、鹿田地区南西端付近においても、中央部とほぼ同じ程度のレベルに明治層が広がっていることが確認された。

(松木)

注(1) 『岡山大学構内遺跡調査研究年報』9, 1992年, 7～10頁

表 1 1993年度調査一覧

番号	種類	調査地区	所属	調査名称	調査期間	掘削深度(m)	備考	
1	発掘	津島南 BB~BC・10~11	保	保健管理センター	4.17~7.31	1.5~1.8	調査面積400㎡ 弥生前~後期土壌, 弥生末~古墳前期井戸・土壌, 古墳時代住居址, 古代? 炉状遺構・建物等 〈津島岡大10次調査〉	
2	発掘	津島北	情	情報処理センター			調査面積640㎡ 〈津島岡大11次調査〉	
3	試掘	津島南 BE~BF・22~23	農	農学部汎用耕地実験実習施設	12.6~7	1.5	中~近世耕土, 黒褐色土層	
4	立会	鹿田 CA~CG・70~74	医	動物実験施設西側駐車場整備	4.5~7	0.75	造成土内	
5	"	鹿田 AM~AN・47~48	医	外来診療棟北側駐車場整備	4.5	0.5	造成土内	
6	"	津島北 AU10	埋文	沈澱槽設置	4.6	0.85	造成土0.85m, 灰褐色粘質土層上面を確認	
7	"	鹿田 DC~DD・44~45	医病	看護婦宿舍配管	4.16	0.5	造成土内	
8	"	津島北 AZ08	理	給水管改修	4.27	1.3	既設管掘方内	
9	"	津島北 AV17	事	電柱移設	6.1	1.4	陸軍時代の土塁上, 造成土内	
10	"	津島北 AV05~06	工	生体機能応用工学科棟機械設備	7.26~29 8.3.8.19	0.7~1.5	既設管掘方内, 一部明治層	
11	"	津島南 BF08~10	教	排水管改修	8.26	0.5	造成土内	
12	"	津島南 BD09	事	女子学生寄宿舎電気配線設備	9.6	1.3~1.5	造成土内	
13	"	津島北 AV04	工	生体機能応用工学科棟外構工事	10.1~27	0.5~1.0	GL-0.7~0.8mで明治層, -0.85mで近世層	
14	"	津島北 AZ~BA03	教	電柱埋設	10.8	1.0	GL-0.6~1.0mで明治層	
15	"	津島北 AZ08	工	配管改修	10.12	1.0	既設管掘方内	
16	"	津島南 BB~BC・10~11	保	保健管理センター 新営に伴う外構工 事ほか	配管	10.13~25	0.6~1.2	GL-0.65~0.7mで明治層
17	"	津島南 BB~BC・10~12		電気配線	11.2~15	1.8	GL-0.6~0.7mで明治層, 以下 保健管理センター本調査と同じ 層序, 黒褐色土は-1.15~ -1.7mその直下に基盤礫層	
18	"	津島南 BC11		電柱設置	2.1	1.2	GL-0.8mで明治層, -1.1mで 近世層下部	
19	"	津島南 BB11		旧棟改修	2.8~10	1.1	GL 0.8mで明治層, 畝確認 弥生土器3片, 工法変更	
20	"	津島北 AW10	事	津島地区 基幹整備	工学部本館配管改修	11.16.3.7	0.5~0.6	造成土内
21	"	津島北 AV13		図書館受水槽他改修	11.22	0.4	造成土内	
22	"	津島北 AV07		工学部電気電子棟ほ か配管改修	11.24~25 12.13~14	0.6	造成土内	
23	"	津島北 BA07		R I 共同利用施設 排水処理施設他設置	11.29~12.3	3.2	明治~中世層, 暗褐色土層確 認 古代? 溝, 縄文晩期? 土器片 1	
24	立会	津島北 AY01・AZ03~ 04		教育学部受水槽設置	12.13~14	0.4~0.5	造成土内	

番号	種類	調査地区	所属	調査名称	調査期間	掘削深度(m)	備考	
25	"	津島北 AY~AX・01~02	事	津島地区 基幹整備	教育学部配管	1.7, 2.1	0.4~0.5	造成土内
26	"	津島南 BB07		野球場配管	2.18	0.7	造成土内	
27	"	津島南 BB~BG・12~15		農学部前樹木移植	11.9~12.8	0.5~0.7	造成土内	
28	"	津島南 BD~BE13		南北道路沿水路ボックスカルバート敷設	11.12	1.5	GL-1.0mで明治層, 以下中世~近世層を確認	
29	"	津島南 BB~BG・12~13		南北道路沿水路蓋設置	12.16	0.4	造成土内	
30	"	津島南 BC~BF・12~13		集水マス埋置	12.21~24	0.8~0.9	造成土内	
31	"	津島南 BB~BD12		電気配線	1.18~19	0.7	造成土内	
32	"	津島南 BE~BF・17~18		樹木移植	1.21	0.8	造成土内	
33	"	津島南 BB~BG・12~13		水銀灯設置	2.3~7	1.8	10箇所, GL-0.5~1.2mで明治層, 以下近世~中世層, 一部で暗褐色土層を確認	
34	"	津島南 BD~BE・12~13		信号機設置	2.8~10	1.6	GL-1.0m前後で明治層, 以下近世~中世層, 一部で暗褐色土層	
35	"	鹿田 AK~AU50	医	鹿田地区 環境整備	樹木・看板等設置	11.10, 12.01	0.7	造成土内
36	"	鹿田 AE43~50		樹木移植	12.15	0.7	造成土内	
37	"	鹿田 AD54~55		自転車置場設置	3.3	0.5	造成土内	
38	"	津島南 BE~BF23	農	汎用耕地実験実習施設外構工事	1.17	0.7	造成土内	
39	"	津島南 BB~BC05	学	野球場バックネット他改修	東側防球ネット	1.21	2.0	GL-1m前後で明治層, -2m付近で部分的に黒色土を確認
40	"	津島南 BB05~06			バックネット	1.24~1.26	3.0~3.2	GL-1m前後で明治層, -2m付近で黒色土を確認, その下は黄色砂~青灰色粘土
41	"	津島南 BB05~07			北側防球ネット	2.15~16	3.0	調査39・40よりGLが低く, -1.2~1.8mで黒色土を確認, その下は褐色~青色砂, 湧水
42	"	鹿田 CW~CX・36~38 CO~CP・35~36	医病	看護婦宿舎 改修	樹木移植	10.20	0.5	造成土内
43	"	鹿田 DB30~42			配管・マス埋置	1.18	0.5~0.8	造成土内
44	"	鹿田 CP~DI・26~30			電気配線	1.27, 2.07	0.7~1.0	GL-0.6~0.7で明治層確認
45	"	鹿田 CT38~CV38, CT 40~42, CT~ CV40			電力・情報・通信外線設置	2.2	0.8	造成土内
46	"	鹿田 AH~AQ・2~7	医病	外来患者用二階建駐車場設置	2.14	0.7	造成土内	
47	"	津島南 BF~BG・22~23	事	津島地区情報 ネットワーク 設備	農学部Ⅳ号館	3.7~9	0.7	造成土内
48	"	津島南 BF~BG・17~18			農学部Ⅱ号館	3.9~11	0.7	造成土内
49	"	鹿田 DG68~75	医	テニスコートブロック塀他改修	3.14	0.9~1.0	GL-0.8~0.9mで明治層確認	

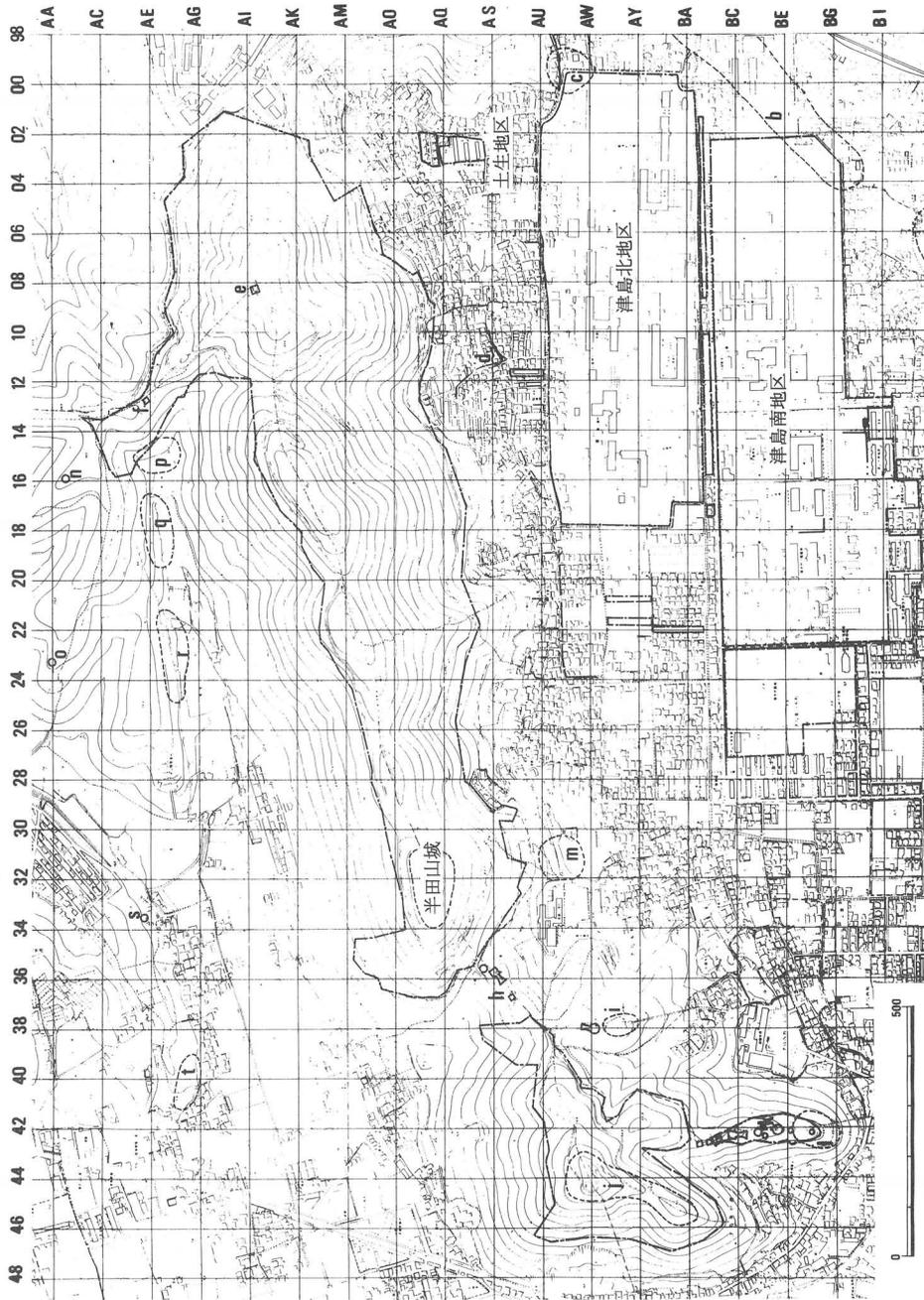
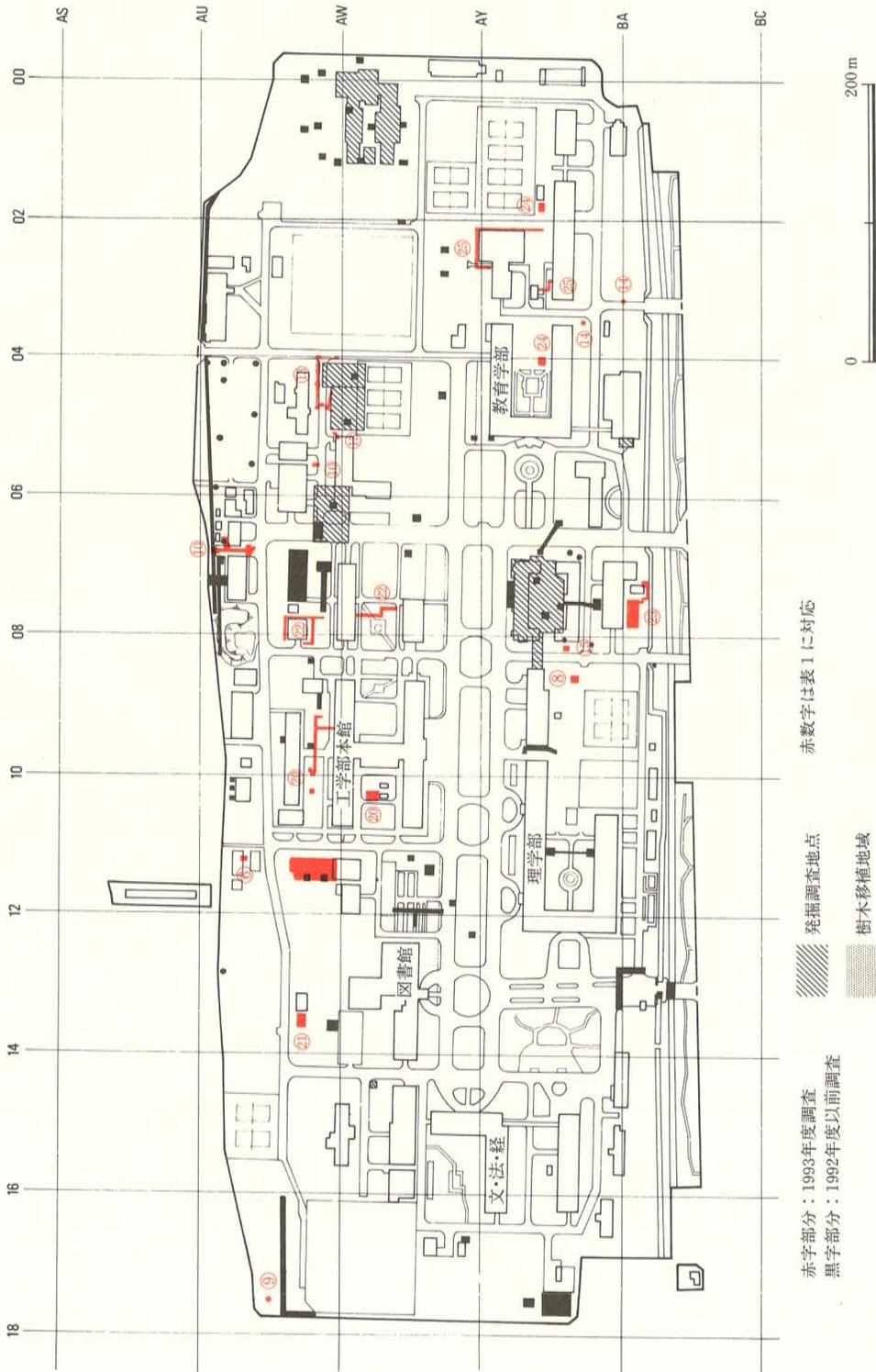


図13 津島地区全体図 (縮尺1/15000)



赤字部分：1993年度調査
 黒字部分：1992年度以前調査

斜線部分：発掘調査地点
 格子部分：樹木移植地域

赤字は表1に対応

図14 津島北地区 (縮尺1/5000)

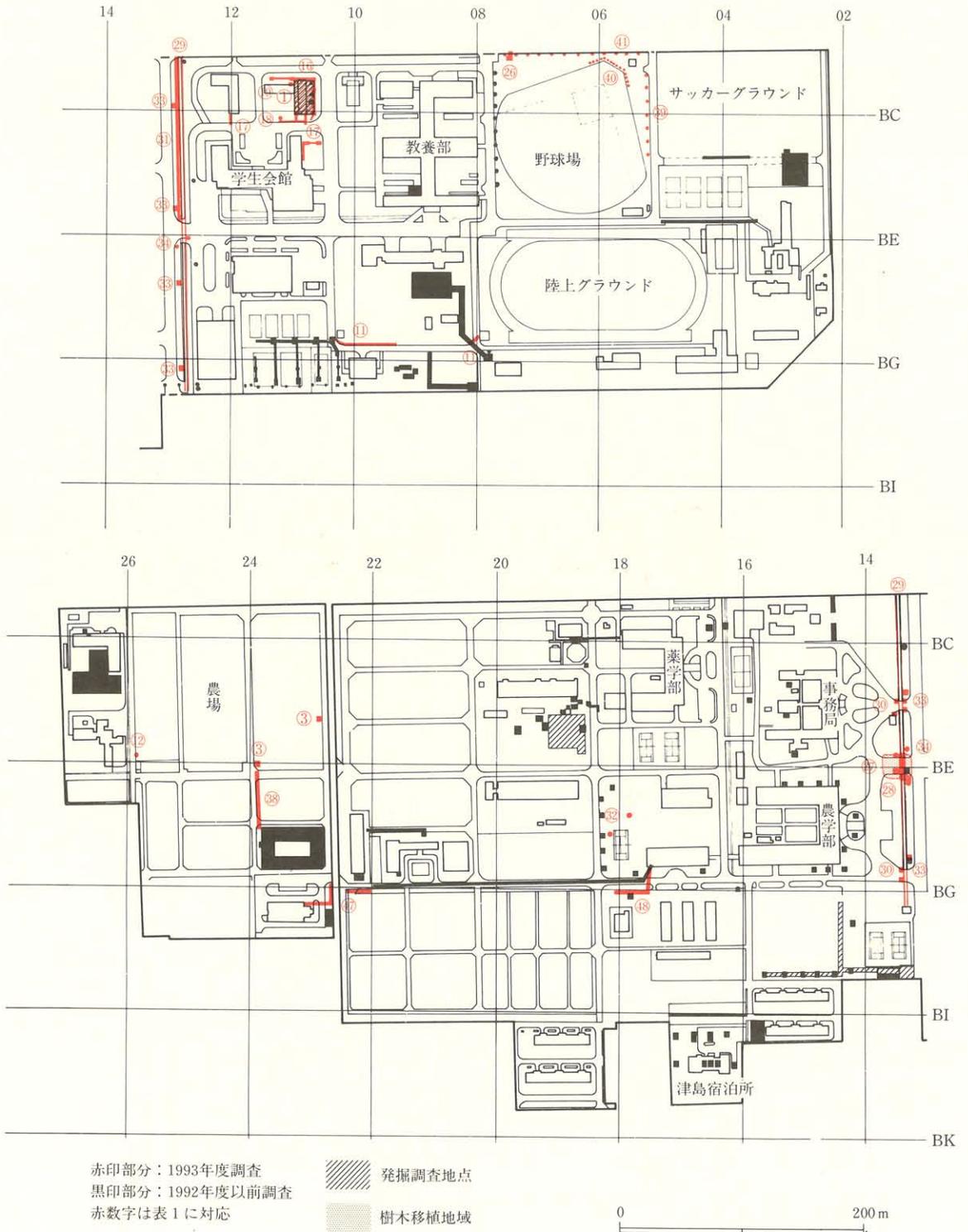
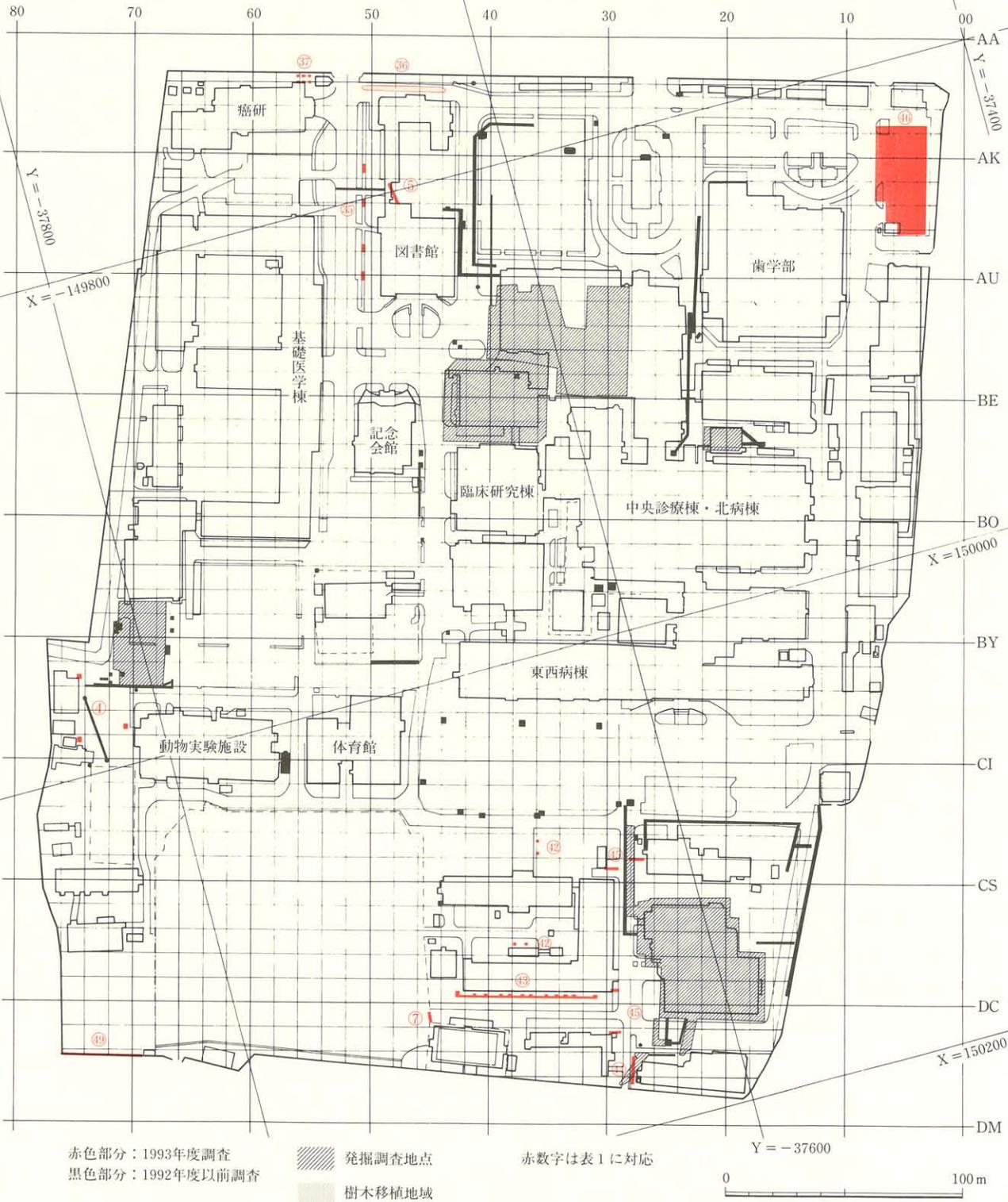


図15 津島南地区 (縮尺1/5000)



赤色部分：1993年度調査
 黒色部分：1992年度以前調査

発掘調査地点
 樹木移植地域

赤数字は表1に対応

Y = -37600
 0 100m

図16 鹿田地区全体図 (縮尺1/2500)

第2章 1993年度普及・研究・資料整理活動

1 資料整理

本年度は次の6件の発掘調査の資料整理を行った。

- ① 津島岡大遺跡第5次調査（大学院自然科学研究科棟）
報告書刊行
- ② 津島岡大遺跡第6次調査（工学部生物応用工学科棟）
遺物実測，図面作成
- ③ 津島岡大遺跡第7次調査（工学部情報工学科棟）
遺物実測，図面作成
- ④ 津島岡大遺跡第8次調査（遺伝子実験施設）
遺物洗浄
- ⑤ 津島岡大遺跡第9次調査（工学部生態機能）
遺物洗浄
- ⑥ 津島岡大遺跡第10次調査（保健管理センター）
遺物洗浄

2 分析依頼

- ① 津島岡大遺跡出土の縄文時代堅櫛の漆の分析および鹿田遺跡出土の刀の保存処理
.....岡田文男
- ② 津島岡大遺跡および鹿田遺跡出土土器の赤色顔料の分析.....魚島純一

3 刊行物

- ① 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第10号 1993年3月 発行
- ② 岡山大学構内遺跡調査研究年報 第10号 1993年11月 発行
- ③ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第7冊 1993年3月 発行
- ④ 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第11号 1993年10月 発行

なお1992年度までの刊行物については附表3・4で一覧として掲載してある。

4 調査員の活動

(1) 資料収集活動

阿部芳郎

岡山県津雲貝塚出土遺物の実査：京都大学

香川県永井遺跡出土遺物の実査：香川県埋蔵文化財センター

富樫孝志

石灰岩地帯における遺跡および第4紀哺乳動物化石産出地点の調査：岡山県阿哲台

松木武彦

東海地方南部の古墳実査

埋蔵文化財行政に関する資料実査

山本悦世

北部九州縄文時代関連資料収集

南九州の縄文時代関連資料収集

関東の縄文時代関連資料収集

四国における弥生前期土器の実見

(2) 学会・研究会等参加

阿部芳郎

考古学研究会総会（4月）、日本考古学協会大会（5月）

富樫孝志

中・四国旧石器談話会（11月）、考古学研究会総会（4月）

松木武彦

考古学研究会総会（4月）、文化財保存全国協議会大会（6月）、日本考古学協会大会（10月）

山本悦世

考古学研究会総会（4月）、中四国縄文研究会（6月）、東海考古学フォーラム豊橋大会（12月）

古代の土器研究会（1月）、国際低湿地遺跡研究会（3月）、中四国中世土器検討会（10月）

(3) 論文・資料報告他

阿部芳郎

「縄文土器の広がりは何をしめすか」『新視点日本の歴史』1 新人物往来社

「研究動向 土器型式論 後期」『縄文時代』第5号

「上土棚遺跡出土後期土器の胎土分析」（共著）綾瀬市史研究創刊号

「四街道市島越台貝塚と鹿島川下流域の後期遺跡群」四街道市の文化財第20号

「後期第Ⅳ群土器の型式学的検討」『津島岡大遺跡』4

「後期第Ⅳ群土器の製作技術と機能」同上

「西ヶ原貝塚出土の堀之内Ⅰ式土器とその変遷」『西ヶ原貝塚Ⅱ 東谷戸遺跡』東京都北区教育委員会

富樫孝志

「津島岡大遺跡第5次調査出土の縄文時代後期石器群の技術構造」『津島岡大遺跡』4

松木武彦

「文全協第24回佐賀大会参加記」『考古学研究』第40巻第2号

山本悦世

「貯蔵穴出土の種子」（共著）『津島岡大遺跡』4

5 日誌抄

1992年

- 4月1日 元興寺文化財研究所より保存処理済の鹿田遺跡の木器返却
- 4月2日 月例会議
- 4月6日 土井、松木植物種子分析依頼のため大阪出張
- 4月21日 センター報納品
- 4月23日 木器処理，PEG溶液の濃度を70%に上げる。
- 4月28日 運営委員会
1992年度事業報告，1992年度予算案，1993年度事業計画
- 5月7日 月例会議
- 5月26日 管理委員会
- 5月28日 『鹿田遺跡3』納品
- 5月31日 木器処理，PEG溶液の濃度を75%に上げる。
- 6月7日 月例会議
- 6月18日 技術補佐員絹川 恵退職 NHKビデオ収録
- 6月26日 津島岡大遺跡第10次（保健管理センター）調査現地説明会
- 6月30日 調査研究員土井基司退職
- 7月27日 月例会議
- 8月2日 津島岡大遺跡11次（情報処理センター）調査打合せ
- 8月3日 津島岡大遺跡第10次調査終了
- 8月5日 運営委員会
- 8月17日 木器処理，PEG溶液の濃度を85%に上げる。
『鹿田遺跡3』発送
- 8月27日 博物館実習開始
- 9月2日 月例会議
- 9月14日 津島岡大遺跡第11次（情報処理センター予定地）調査開始
- 9月27日 鹿田遺跡出土の動物骨，奈良国立文化財研究所より返却
- 10月1日 月例会議
- 10月4日 木器処理，PEG溶液の濃度を90%に上げる。
- 10月8日 岡山県立博物館特別展に写真貸出し
- 10月20日 運営委員会 人事について
- 10月21日 岡山県立博物館に鹿田遺跡出土遺物

貸出し

- 11月1日 月例会議
 - 11月5日 第一会議室遺物展示ケースの展示換え
 - 11月18日 木器処理，PEG溶液の濃度を95%に上げる。
 - 11月24日 センター報納品
 - 11月26日 12月以降の発掘調査の計画について検討
 - 11月30日 「考古学入門」受講生，発掘調査見学（新納引率）
 - 12月1日 月例会議
 - 12月2日 津島岡大遺跡第12次（図書館増築）調査の打合せ
 - 12月13日 『津島岡大遺跡4』原稿入稿
 - 12月16日 『岡山大学構内遺跡調査研究年報』10納品
 - 12月21日 大掃除
 - 12月27日 御用納め
- 1994年
- 1月4日 御用始め
 - 1月10日 月例会議
 - 1月11日 津島岡大遺跡第11次調査終了，同第12次調査（図書館増築）の発掘承諾書提出
 - 1月13日 年報10，センター報10発送
 - 1月14日 緊急会議 新年度の業務体制と第一会議室展示変え等について
 - 1月20日 木器処理，PEG溶液の濃度を100%に上げる。
 - 2月1日 月例会議
 - 2月3日 運営委員会
 - 2月24日 木器処理終了，処理槽より木器取り出し
 - 3月3日 津島岡大遺跡第12次（図書館増築）調査開始，月例会議 報告書作成状況，新年度活動計画，予算案等

6 1993年度までの遺物保管状況

遺物収蔵量（表2）

1994年3月31日における遺物収蔵量は約30ℓのコンテナを単位として、1616箱である。また木製遺物は大型の水槽に保管のものは1箱に換算してある。

前年度に比較して約59箱分の増加が見られたが、これは津島岡大遺跡第10次調査（保健管理センター）と同11次調査（情報処理センター）の調査によるものである。とくに第10次調査では、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落の一部が検出されたため、土器類を主体として、木製品や鉄屑を含む土壌サンプルなど多くの遺物と分析資料が回収された。

これらの遺物は、今後の整理分析作業により分類と接合や復元がおこなわれ、最終的な収納形態を整えるため、実際のところは箱数の増加が予想される。また木製遺物についても保存処理後の保管場所の確保等で収納面積の増加が見込まれる。

7 遺物の保存処理

岡山大学構内では各調査において多くの木製品を出土してきた。これらの木製品は、何らかの科学的処理を行わない限り、長期的保存を望むのは困難である。保存処理の方法としては自然乾燥が可能な場合もあるが、PEG（ポリエチレングリコール）・アルコールなどを水と置換する方法が、現在、一般的である。

本センターでも、調査ごとに増加する木製品の保存のため、ついに、1992年度から本格的な対応を開始することができた。保存処理の困難なものに関しては専門業者に外注せざるを得ないが、安全性の高いものについてはPEG含浸による保存処理が可能となった。

本年度は、昨年度の7月から開始した第1回目の含浸の継続、そして終了までが成された。濃度の上昇工程は次のようである。

1993年4月23日	65%—70%	5月31日	70%—75%	6月30日	75%—80%
8月9日	80%—85%	10月3日	85%—90%	11月18日	90%—95%

ここまでは水分の蒸発とPEGの投入によって5%ごとに濃度を上昇させた。

11月30日からは蓋を開けて水分を徐々に蒸発させることによって、100%に近づけることとした。その後、98%程度までは濃度の上昇が認められたが、それ以上は変化しなかったため、1994年2月24日に含浸を終了し、木製品の引き上げを行った。

含浸槽から出された木製品は、PEGがべっとり付着しているため、湯でさっと表面を洗い流した後、50%弱のアルコール溶液に通してから、日陰で自然乾燥させた。

数日間乾燥した後、それぞれをやや厚めのポリ袋に入れ、ポリシーラーで密閉して保存している。処理後の状態は、概ね良好で形状に歪みや亀裂等は生じていなかった。

このように、本センターにおいても木器の保存処理がある程度可能であることが確認され

表2 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要

所属	種類	地 調 査 名 区 称	箱 数 (1箱:約30ℓ)						備 考 主要時期・特殊遺物	文 献
			総 数	土 器	石器	木器	その他	サンプル		
医病	発掘	鹿田1次調査(外来診療棟)	608	491	6	60	1 ガラス 鉄 器 鏝 他	50	弥生中期～中・近世 短甲状・櫛状木器等	⑦
"	"	鹿田2次調査(NMR-C T室)	116	90	3	20		3	弥生後期～中世, 田舟, 木簡	"
医短	"	鹿田3次調査(校舎)	131	36		90		5	古代～中世	⑩
"	"	鹿田4次調査(配管)	3	2				1	古代, 鹿角製品	"
医病	"	鹿田5次調査(管理棟)	119	79	1	20		19	弥生後期～中・近世	⑭
R I	"	鹿田6次調査 (アイントープ総合センター)	30	29.5	0.5				中世, 青銅製碗	⑮
全	"	津島岡大1次調査(NP-1)	4			4			弥生中期～古代	⑰
農	"	津島岡大2次調査 合併処理槽 排水管	18	7 6	1			4	縄文晩期～弥生前期	⑱
学生	"	津島岡大3次調査(男子学生寮)	71	49	10	2		10	縄文後期～弥生, 古代～近世 石製指輪, 蛇頭状土器片	⑲
"	"	津島岡大4次調査(屋内運動場)	1	1					縄文晩期～弥生前期 <試掘調査遺物を含む>	⑳
大自	"	津島岡大5次調査 (自然科学研究棟)	89	55	2			32	縄文後期～弥生, 古代～近世 耳飾・木製櫛(縄文)	㉑
工	"	津島岡大6次調査 (生物応用工学科棟)	63	30	1	22		10	縄文後期～近世 人形木器, アンペラ	"
"	"	津島岡大7次調査 (情報工学科棟)	13	7	1			5	縄文後期～近世	"
全	"	津島岡大8次調査(遺伝子実験)	14	12.9	0.1			1	縄文後期～近世	㉒
工	"	津島岡大9次調査 (生体機能工学)	258	35		3		220	縄文後期～近世	㉓
全	"	津島岡大10次調査 (保健管理センター)	55	40		5		10	弥生前期～近世	㉔ ㉕
"	"	津島岡大11次調査 (情報処理センター)	4	2				2		㉖
医病	試掘	鹿 田 駐 車 場	1	1					弥生～中世	⑤
学生 教育	"	津島北 男子学生寮	1	0.7	0.3				縄文後期～弥生前期	"
大自	"	" 自然科学研究科棟	1	1					縄文後期～弥生前期	⑥
事 理	試掘	津 島 外国人宿舎(土生)	1	1					縄文～中世	⑧
"	"	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3					中・近世	"

所属	種類	地 調 査 名 区 称	箱 数 (1箱:約30ℓ)						備 考 主要時期・特殊遺物	文 献
			総 数	土 器	石 器	木 器	その他	サンプル		
教養	試掘	津島南 身障者用エレベーター	0.7	0.7					縄文・中世	⑧
工	"	津島北 校舎	1	1					縄文～近世	⑩
農業	"	津島南 動物・遺伝子実験施設	0.7	0.7					縄文～弥生, 中・近世	"
事	試掘	津島南 国際交流会館	0.3	0.3					中世	"
大白	"	津島北 合併処理槽	0.2	0.2					中・近世	⑭
学生	"	津島南 学生合宿所	0.4	0.2				0.2	中世	"
教育	"	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3					縄文	"
図	"	" 図書館	0.8	0.8					古墳～中世	"
学生	"	津島南 学生合宿所ポンプ槽	0.4	0.4					縄文～中世	⑮
資生	"	倉 敷 資源生物科学研究所	0.1	0.1					近世	"
R I	"	鹿 田 アイソトープ総合センター	1	1					中世～近世	"
事	"	津島北 福利厚生施設	0.5	0.5					弥生?～中世	"
全	立会	83年度	2	2					分銅形土製品	①
"	"	84年度	1	1						②
"	"	85年度	1	1						⑤
"	"	86年度	0.5	0.5						⑥
"	"	87年度	0.5	0.5						⑧
	分布	89年度 三朝・本島	0.3	0.3						⑭
全	立会	91年度 92年度 93年度	0.3	0.3						⑳ ㉑
箱 総 数			1616.3	991.2	25.9	226	1	372.2		

※文献番号は附表3, 4に対応する。文献㉑は本年報11を指す。

た。ただ、専門の職員がおらず、発掘調査等の合間をぬっての作業であったため、通常の工程と比較してかなりの時間が費やされてしまい、また、専門的知識の不足から、試行錯誤の連続であった。こうした点は今後の課題として解決していく必要を感じている。

木製品の保存処理は、長期的な保存を可能にするだけでなく、通常の状態でも長時間水から出すことのできなかつた遺物が扱い易くなることによって、より幅広い活用方法（例えば展示など）も生み出す。今後も、継続的に保存処理を続けていくことが必要であろう。

本年度の保存処理に関して、特に、京都市埋蔵文化財研究所の岡田文男、岡山県古代吉備文化財センターの遠藤七都子、両氏には細部にわたるご教示をいただいた。感謝の意を表したい。

(山本)

第3章 1993年度活動のまとめ

本年度は稲田孝司センター長以下、助手5名、技術補佐員1名の業務体制で、構内遺跡の調査および出土資料の整理分析作業をおこなった。今年度の発掘調査は、津島北地区の保健管理センターの建築にともなう調査（津島岡大遺跡第10次調査）と南地区内の情報処理センターの建築にともなう調査（津島岡大遺跡第11次調査）の2件であった。

第10次調査は微高地部分に相当し、集落の検出が予測されていた地点である。前年度からの継続調査で本年度は近世層以下の調査を実施した。弥生時代後期から古墳時代前期を中心とした多量の遺物が、住居や土坑などの遺構に伴って検出され、本調査地点が当時の集落址にあたることが明かにされた。

第11次調査は微高地のなかでも立地がやや低く、図書館北側に展開する湿地にむかい、緩く北側に傾斜する地点にあたる。ここでは弥生時代後期と古墳時代の層内で比較的良好な遺存状態で水田畦畔が全面に検出された。またこの下層には黒色土を掘り込む堅穴状遺構と黒色土の中位面以下に構築面をもつ小堅穴遺構が各1基検出された。前者は出土遺物と構築面から弥生時代中期に、後者は未調査部分を残すが床面出土遺物から縄文時代後期の所産と判断できるのであった。低位の立地を示す居住施設の発見は、縄文、弥生時代の居住形態を検討する興味深い材料となるであろう。

室内の整理分析作業では、1988年に調査された津島岡大遺跡第5次調査の報告書が刊行された。縄文時代後、晩期の貯蔵穴と、周辺から出土した豊富な土器・石器類などの遺物は、土器編年や当該期の生産活動の復元に役立つ貴重な資料となる。また自然遺物や理化学的手法による分析から、コメやヒエなどの栽培植物の存在が明らかになり、当地域における縄文時代後期の生業を考えるための注目すべき成果もあがっている。

定期刊行物では、年報10、センター報11、12号も予定通り刊行できた。年報の附編では能代修一氏に委託した鹿田・津島両地区の木製品と木材化石の樹種同定結果を一括再録し、今後の活用の便を図った。

構内遺跡の調査の進行により収納量が急増している木製品については、昨年度よりPEGを用いた保存処理を新設の木器処理施設で開始したが、第1回目の処理が終了した。井筒や杭などの大型のものも多く、処理後の収納と保存管理など、今後を検討すべき問題も表面化しつつある。この他に啓蒙活動として津島岡大遺跡第10次調査の現地説明会を実施した。今後とも学内、外を含め、発掘調査の成果をひろく公開・普及し、学内の埋蔵文化財の保存と活用に対する理解を深めてゆく必要がある。

（阿部）

附 表

附表1 1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）

年度	遺跡名 調査地区名	種類	所属	調査名称	調査組織	調査面積(m ²)	文献	備考
1980	鹿田	立会	歯	同附属病院棟新営	岡山市教育委員会	8.0		
1981	津島南 BD26	"	農	寄宿舎新営	"			
	津島北	"	文法 経	合併処理槽埋設	"			
	津島南 BD09 BC09～11	"		基幹整備（共同溝取付）	"			
	津島南 BD～BE04～ 07	"		陸上競技場改修 （配水管埋設）	"			
	鹿田	"	医病	高気圧治療室新営	"			
	"	"	"	動物実験施設新営	" 岡山県教育委員会			試掘調査をせず破壊 残存壁面等の調査
	"	"	"	病理解剖体臓器処理保管 庫新営	岡山市教育委員会			
"	"	"	医	運動場改修	"			
1982	津島 AV06・10 AW05・14 AX08, BD07 BE10	試掘		排水基幹整備	"			津島AW14区で弥生時代 包含層確認，協議
	小橋法目黒 津島北 AW14	発掘	法文	排水管集中槽(NP-1)埋設	岡山大学	24.0	③	<津島岡大1次調査>
	津島南	試掘	学生	武道館新営	岡山市教育委員会	2.3		
	津島北 AY15・16	"	法経	校舎新営	"	7.0		
	鹿田	"	医	標本保存庫新営	岡山県教育委員会	8.0		
	"	"	医病	外来診療棟新営	" 岡山市教育委員会	4.0	2	
	"	立会	医	動物実験施設関連排水 管・ガス埋設	岡山県教育委員会		1	
鹿田 AE～AN22 AE22～26	"	歯	電話ケーブル埋設	" 岡山市教育委員会 岡山大学埋蔵文化 財調査室				

- ※文献1 光永真一「岡山大学医学部附属病院動物実験施設新営工事に伴う排水管付設工事に伴う立会調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 1983 岡山県教育委員会
 2 河本 清「岡山大学医学部附属病院外来診療棟改築に伴う確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 1983 岡山県教育委員会
 ③ 番号は附表3の番号に対応する。

附表2 1992年度以前の構内主要調査（1983～1992年度）

附表2－（1） 発掘調査

年度	調査地名	所属	調査名称	期間	面積(m ²)	備考	文献
1983	鹿田 AU～BD28～40	医病	外来診療棟新営	7.27～11.22 84.1.9～3.31	2188	弥生時代中期後半～中・ 近世集落址 <鹿田1次調査>	⑦
	" BG～B118～21	"	NMR-CT室新営	8.1～12.30	176	弥生時代後期～中世集落 <鹿田2次調査>	"

1993年度活動のまとめ

年度	調査地名	所属	調査名称	期間	面積(m ²)	備考	文献
1983	津島南 BE14・18 BF17・18 BG14 BH14・15	農	排水管理設	'84.1.9~3.5	265	縄文時代晩期~弥生時代 前期集落址 ＜津島岡大2次調査＞	④
	" BH13	"	合併処理槽埋設	11.14~11.22 '84.1.9~3.5	276	" ＜津島岡大2次調査＞	"
1984	鹿田 AU~BD28~40	医病	外来診療棟新営	4.1~8.31	2188	弥生時代中期後半~中・ 近世集落址 ＜鹿田1次調査＞	⑦
1986	" CN~CU27・28 CT~CY19~27 CX~DD16~25 DD~DG22・23	医短	校舎新営	6.2~11.29	2390	古代~中世の集落址 ＜鹿田3次調査＞	⑭
	津島北 AV00,AW00・ 01	学生	男子学生寮新営	12.1~'87.3.31	1550	古代~近代の水田址 ＜津島岡大3次調査＞	⑲
	津島南 BF・BG09	"	屋内運動場新営	'87.1.19~1.22	70	弥生前期溝, 中世河道 ＜津島岡大4次調査＞	⑥
1987	津島北 AV00 AW00・01	"	男子学生寮新営	4.1~6.18 8.24~9.5	1550 80	縄文晩期~弥生の集落址 縄文後期~晩期の河道 ＜津島岡大3次調査＞	⑲
	鹿田 BB~BH35~42	医病	管理棟新営	10.6~'88.3.2 '88.3.23~3.31	1192	弥生中期後半~中・近世 の集落址 ＜鹿田5次調査＞	⑭
	" DD~DF25 DG~DI27・28	医短	校舎周辺の配管	11.2~11.21	30	古代の河道 ＜鹿田4次調査＞	⑩
1988	津島北 AY06~08 AZ06・07	大	自然科学研究科棟	6.27~'89.3.19	1537	縄文後・晩期の貯蔵穴と 河道 弥生~近世の水田址 ＜津島岡大5次調査＞	⑪
	" AV・AW04・05	工	生物応用工学科棟	9.20~'89.3.31	600	縄文後・晩期の貯蔵穴と 河道 弥生~近世の溝と水田址 ＜津島岡大6次調査＞	"
	" AV・AW05・06	"	情報工学科校舎	10.12~ '89.3.31	800	縄文後・晩期集落址 弥生~近世水田址 ＜津島岡大7次調査＞	"
1989	津島北 AV・AW04・05	工	生物応用工学科棟	4.1~5.31	600	縄文後・晩期の貯蔵穴と 河道 弥生~近世の溝と水田址 ＜津島岡大6次調査＞	⑭
1990	津島北 AY・AZ08	大	自然科学研究科棟	4.3~4.21	90	古墳時代後期溝 ＜津島岡大5次調査＞	⑱
	鹿田 BW~CC67~71	R I	アイントープ総合 センター	11.20~ '91.3.31	690	鎌倉時代溝・井戸・建物 群 ＜鹿田6次調査＞	⑱
1991	鹿田 BW~CC67~71	R I	アイントープ総合 センター (R I)	4.1~6.30	690	鎌倉時代溝・建物群, 土 器他 弥生~古墳時代溝・土 壙, 土器 ＜鹿田6次調査＞	⑳
	津島南 BD18・19	農	遺伝子実験施設	7.23~12.25	650	弥生時代~近世溝等, 縄 文時代土壙, 土器・石器 他 ＜津島岡大8次調査＞	"
	津島南 BH13	"	(合併処理槽)	7.23~12.2	140	古代~近世水田 弥生土器・石器他 ＜津島岡大8次調査＞	"

年度	調査地名	所属	調査名称	期間	面積(m ²)	備 考	文献
1992	津島北 AU~AM04	工	生体機能応用工学 科棟	7.1~'93.1.29	650	縄文後・晩期の貯蔵穴と 河道ほか 弥生~近世の溝と水田址 <津島岡大9次調査>	㉔
	津島南 BB~BC10~11	保	保健管理センター	'93.2.1~3.31	400	近世耕地・野壺ほか、94 年度に継続 <津島岡大10次調査>	"

附表2-(2) 試掘調査など

年度	調査地区名	所属	調査名称	掘削深度 (m)	備 考	文献
1983	津島南 BH13	農	合併処理槽予定地	2.5	弥生・前期土器片 <'83年度発掘>	①
	" BE~BG14 BE・BH15 BE18, BF16~18	"	排水管理設予定地	2.0	弥生・前期土器片 <'83年度発掘>	"
	" BF17	"	排水管中間ポンプ槽予定地	3.5		"
	" BF22・23	"	農場畜舎新営予定地	2~3	造成土0.6m, 土器片出土 <1987年度工事立会>	"
	" BC・BD15	事	大学事務局新営予定地	"	造成土0.9m, 土器片出土	"
	" BB10	学生	保健管理センター新営予定地	"	造成土0.8m, 溝検出	"
	" B116	事	津島宿舍新営予定地	2.0	造成土0.9m, 土器片出土 <1987年度工事立会>	"
	津島北 AW05	工	校舎新営予定地	3.0	造成土1.0m, 土器片出土	"
1984	鹿田 BU30・31	医病	西病棟北側受水槽予定地	1.4	造成土0.5~0.7m 中世土器・包含層確認 <盛土保存>	②
	" CT・CU25 CZ19・20・23・24	医短	医療短期大学部校舎新営予定地	2.7	造成土0.8~1.0m 中世・古代の遺物出土 <1986年度発掘調査>	"
1985	津島南 DE08	教養	講義棟予定地	3.5	造成土1.2m, 遺構・遺物未確認 <1986年度工事立会>	⑤
	津島北 AX02	教育	研究棟予定地	2.6~3.4	造成土1.2m 縄文~弥生時代土器出土	"
	" AV・AW99~01	学生	男子学生寮新営予定地	2~3	造成土1.0m 縄文~中世の遺構・遺物 <1986年度発掘調査>	"
	鹿田 AJ33, A140 AJ・AK26	医病	外来診療棟環境整備工事に 先立つ範囲確認調査	2.2~3	造成土0.9~1.4m 弥生~中世の遺物	"
1986	津島南 BF・BG09	学生	屋内運動場新営予定地	2.4 1.2~1.7	造成土1.1m 弥生前期溝・中世河道検出 <1986年度発掘調査>	⑥
	津島北 AY・AZ07	大	自然科学研究科棟新営予定地	1.6~3.2	造成土0.6~0.8m 縄文中期末~後期の遺構・遺物 <1988年度発掘調査>	"
1987	土生 AP02	事	外国人宿舎建設予定地	2.2~2.8	近世・弥生・縄文の遺構面確認	⑧
	津島北 AV11	情	情報処理センター新営予定地	2.0~3.0	造成土2m 黒色土を標高2.2m前後で確認	"
	" AY09	理	身体障害者用エレベーター 建設予定地	3.0~3.5	造成土約1m 近世・中世の遺物 中世・古代の水田址 <継続して発掘調査に及ぶ>	"

1993年度活動のまとめ

年度	調査地区名	所属	調査名称	掘削深度(m)	備考	文献
1987	津島南 BD09	教養	"	2.5	造成土0.7m 縄文時代土壙群を確認 縄文・中世・近世土器出土 <継続して発掘調査に及ぶ>	⑧
1988	津島北 AX04・06,AW04	工	校舎建設予定地	2.0~3.5	黒色土を標高3m弱で確認 溝状遺構・水田址検出 縄文~近世土器出土 <1988年度発掘調査>	⑩
	津島南 BD18・19	農業	動物実験飼育施設 及び遺伝子実験施設	2.3	造成土1.1~1.2m 黒色土を標高約2.3mで確認 溝状遺構・縄文~中世遺物検出	"
	津島南 BC29	事	国際交流会館	2.5	造成土約1.2m 近世・中世の遺物出土 <1988年度工事立会>	"
1989	津島北 AZ17	大自	合併処理槽設置予定地	4.0	造成土1.6~2m 中世~明治の水田の畦畔・溝 <1989年度工事立会>	⑬
	津島南 BD02	学	学生合宿所予定地	2.0~3.2	造成土約1m 縄文晩期~弥生前期の畦畔 <1989年度工事立会>	"
	" AZ・BA05	教育	身体障害者用エレベーター	2.5	造成土0.8m 縄文時代後~晩期の落込み 縄文時代後期~中世土器片 <小規模発掘,面積38.5㎡>	"
	津島北 AV・AW13	図	図書館新営予定地	3.0	造成土1.4~1.6m 古代水田, 弥生~古代の溝	"
1990	津島南 BD02	学	学生合宿所ポンプ槽予定地	2.5	弥生時代前期畦畔, 中世土器片	⑭
	倉敷地区	資生	資源生物科学研究所遺跡確認調査	2.5	中世後半以降土器片	"
	鹿田 BY・BZ68	R I	アイソトープ総合センター予定地	2.3	中世土師質土器など <1990・91年度発掘調査>	"
	津島南 AW・AX03	事	福利厚生施設予定地	3.9	弥生~古墳時代の溝, 中世土器小片	"

附表2-(3) 立会調査

年度	調査地区名	所属	調査名称	掘削深度(m)	備考	文献
1983	東山	教育	附属中学校新営	4~5	シルト層中	①
	鹿田 AR・AS38, BC40	医病	外来診療棟及び旧耳鼻科棟基礎杭保存状況確認調査	2.5~3.0		"
	津島北 AX15	文	中庭水銀灯地下ケーブル	0.7	造成土中	"
	鹿田 AY23	医病	旧中央診療棟埋設給水管	1.0	"	"
	" AM32	"	外来診療棟シールド取付に伴うアース線埋設	2.0	"	"
	" A0~AW22	"	外来診療棟蒸気配管埋設	1.3	弥生後期土器(分銅形土製品) 貝集積	"
	津島南 BC~BF18	業	周辺排水用集中槽埋設 水道管埋設	2.5 1.5		"
	津島北 BA13	事	西門橋梁改修	2.6		"
	鹿田 BH17~18	医病	混合棟北側ガス管埋設	1.0	造成土中	"

年度	調 査 地 区 名	所 属	調 査 名 称	掘削深度 (m)	備 考	文献
1984	鹿田 BG・BH17・18	医病	NMR-C T室新設関係排水施設取付	0.6~1.5		②
	鹿田 BD~BH64	医	旧基礎医学棟中庭駐車場整備	0.8		"
	津島北 AW・AX11 AZ・BA12・13	情	通信用管路埋設	0.7~1.4	造成土0.9~1.2m	"
	鹿田 AE36	医病	外来診療棟新営関係電柱架設	1.95	造成土1.25m	"
	" BQ33	"	中診北病棟外来リカバリー室医療機器用取付	1.6	" 1.5m	"
	" BT21	"	厨房棟東側埋設ガス管修繕	0.8	造成土中	"
	" DB29	"	看護婦宿舎前水道管修繕	2.0	造成土1.15m 中世包含層確認, 中世・弥生式土器	"
	津島南 B116	事	非常勤講師宿泊施設新営	1.6	" 1.0m	"
	" B115	"	南宿舎合併処理槽取付	2.0		"
	" B115~17	"	南宿舎合併処理槽関係配水管埋設	1.0~2.2	造成土1.0m 溝・土壌検出, 須恵器・弥生土器	"
	鹿田 BA16~22	医病	外来診療棟関係ガス管引込み工事	1.2~1.4	ほとんど造成土	"
1985	" AW~BH23 BH・B124	"	" 屋外排水管理設	1.3~1.7	造成土0.7~1.3m 中世・弥生の遺構, 遺物確認	⑤
	" CR69	"	看護学校構内水道メーター取設	1.0	造成土中	"
	鹿田 AK~AM43~46 AO~AT42他	医	基幹環境整備給排水その他工事	1.0	造成土0.8m, 近世土器溜り検出	"
	" AU~AW40 BA40~42	医病	基幹環境緑化工事, 外来診療棟西	1.1	" " 中世包含層確認	"
	" AG34~36 AL~AN34~39 AU~AS39	"	" 外来診療棟北	1.1	" " "	"
	" BA22他	"	基幹環境整備給排水その他工事	1.15	造成土1.0m	"
	津島北 AV06・07	工	三次元棟新設および排水管理設	1.5~1.7	" 1.0~1.5m, 土器細片出土	"
1986	鹿田 CS・CT19~24 CM~CU12・13 CR14, CU・CW15 CW・CZ16, CH33	医短	樹木移植	0.8~1.5	" 1.0m	⑥
	" B1~BN45	医	排水・汚水管改修	0.8~1.3	" 0.8m	"
	津島南 BE08・09	教養	校舎新営	2.3	" 1.3m, 中・近世土器・溝	"
	鹿田 BV10, CY29 DD29, CK27 CL~CW26~29	医短	" 設備	0.5~1.2	" 0.8~0.9m	"
	津島北 AU04・16・17 AV15	文	樹木移植	1.0~1.6	造成土内	"
	" AV16・17	"	グラウンド改修	3.5	造成土1.5m	"
	津島南 BG08	学生	ハンドボールコート新設	0.2~2.0	" 0.8m, 黒色土確認	"
	津島北 AX16	文	動物実験室新営	0.95	造成土内	"

1993年度活動のまとめ

年度	調査地区名	所属	調査名称	掘削深度 (m)	備 考	文献	
1986	鹿田 CL~CR12 CR~CX13 CX~DA14	医短	護岸及び囲障工事	2.0	造成土0.8~1.0m, 中世包含層	⑥	
	津島南 BF07・08	教養	校舎新営に伴う電気配管	1.8	造成土0.9m, 中世包含層	〃	
1987	鹿田 BC37	医病	管理棟新営に伴う基礎杭確認	2.5	弥生時代包含層・遺構確認	⑧	
	津島北 AY09	理	身体障害者用エレベーター設置 に伴う汚水管移設	1.2 一部1.6	造成土1m前後	〃	
	津島 AQ02・03	事	土生宿舍屋外排水管改修	0.7	〃 0.6m	〃	
	津島北 AW01	学生	馬場東給水管修理	2.0	〃 0.96m, 谷部分	〃	
	鹿田 CW14~17	医短	校舎新営 配管	1.3	〃 1.16m, 中世水田層	〃	
	〃 DC~DE23	〃	〃 〃	1.9	〃 1.1m, 攪乱内	〃	
	〃 CW16	〃	〃 樹木移植	1.2	〃 〃	〃	
	〃 DF24 DG24~26	〃	〃 〃	1.6 3.0	〃 〃 中世層確認 〃 〃 攪乱内	〃	
	〃 DD~DF24 DF23・24	〃	〃 〃	1.38 1.8	〃 〃 中世層確認	〃	
	津島南 BF22・23	農	農場施設新営その他工事	1.8	〃 1.25m	〃	
	〃 BG22	〃	〃 合併処理槽	3.6	〃 1.2m, 自然流路内	〃	
	〃 BE17~21	〃	〃 電気	0.7~1.5	〃 〃	〃	
	〃 BE22	〃	〃 給排水	3.0	〃 1.3m	〃	
	鹿田 BA17~21	医病	旧混合病棟北駐輪場基礎	0.6	造成土内, 弥生土器出土	〃	
	〃 CM・CN30~43 CC~CN45~47	〃	道路排水整備	0.7~1.1	〃 深度1.1m地点のみ 造成土0.65cm	〃	
	〃 CH・CI56・57	医	動物実験施設焼却炉樹部掘削	1.0~1.2	造成土0.8m	〃	
	〃 〃	〃	〃 配管	0.3~1.0	〃 〃	〃	
	〃 CM13~26 CN~CQ14 CP~CI14 CO~CR26・27	医病	脳代謝棟北給水管改修	0.8~0.9	〃 〃	〃	
	1988	津島北 AY11・AZ11	情	情報処理センター通信線付設	1.2	造成土0.8~0.85m	⑩
		鹿田 AE41, AJ・A043 AV40	医病	管理棟新営に伴う電柱架設	1.6	造成土0.6m~1.4m	〃
津島北 AZ06		大	大学院新営に伴う電柱架設	2.3	造成土0.8m	〃	
津島南 BF・BG10・11		教養	テニスコート夜間照明施設	2.2 1.4~1.5	造成土1.5m 黒色土を表土下約2mで確認 西に向かう落ちが推定される	〃	
〃 BC26		事	国際交流会館 本体部分	1.0 2.4~2.9	〃 1.5m	〃	
〃 BB25・26		〃	〃 電柱架設	1.7~1.9	〃 1m, 以下は灰色粘土	〃	
〃 BB26		〃	国際交流会館合併処理槽	2.2	造成土1.3m	〃	
鹿田 AY47		医	玄関付近外灯設置	1.0~1.3	造成土内	〃	

年度	調査地区名	所属	調査名称	掘削深度 (m)	備考	文献
1988	津島北 AU09・10	工	機械工学科・精密応用科学科 実験棟電気改修	1.4~1.6	造成土1.4m	⑪
1989	" AZ09,BA・BB09	大自	自然科学研究科棟新営電柱架設	1.8~2.2	造成土約1.0m	⑬
	" AZ08	"	" 工事用道路	1.4	弥生後期水田, 近世溝検出	"
1989	" AU04・05	工	生物応用工学棟新営 電柱架設	1.5~1.9	" 0.7~1.2m	"
	" AV06	"	情報工学科棟地下部分掘削	6.0	標高-0.5mまで掘削, 遺物無	"
	津島南 BC02		市道拡幅補償工事 学生合宿所新営	1.2	造成土1.2m	"
	" AY17	大自	合併処理槽 地質調査	2.3	造成土2.0m	"
	" "	"	" 本体部分掘削	3.0	<1989年度試掘調査済>	"
	" BD05	学生	体育附属施設新営	1.4	攪乱内	"
	津島北 AX・AY14,BA16	文	樹木移植	1.5	"	"
	鹿田 C026・27	医病	旧管理棟解体に伴う配線移設	0.4~1.3	~近代水田層内	"
	鹿田 CE31~43 CH34~37 CM31~44	"	旧管理棟跡地環境整備 樹木移植	0.8~1.0	造成土内	"
	" CE30・37・44 CJ・CK45 CL28・29 CM35・42	"	旧管理棟跡地環境整備 外灯基礎掘削	1.2~1.5 1.4	造成土0.7~1.0m 中世層確認 攪乱内	"
	1990	津島北 AZ・BA05	教育	エレベーター周辺排水管設置換	0.6~0.8	造成土内
" BC・BD04・05		教養	グラウンドシャワー室新営	1.5~1.2	造成土0.9~1.2m, 条里名残?	"
津島北 AV04~10			岡山市道本町津島東線拡幅に伴う 補償工事Ⅰ	0.4~3.0	造成土0.6~1.4m, 黒色土層 条里溝?	"
" AV・AW04・06		工	生物応用工学棟・情報工学棟外構	1.3	造成土~近世層上層	"
" AY・AZ06~08		大自	自然科学研究棟外構工事及び付 設工事	0.5~2.5	造成土内~近世層 石垣石材(水路?)	"
鹿田 BY~CS60~80		図	附属図書館周辺整備関連樹木移 植等	1.2 1.2	造成土0.7m 造成土0.7m	" "
" BY~CS60~80		医	R I 給水管敷設換え	0.6~0.8	明治層上面	"
津島南 BB14		事	事務局敷地内排水溝修繕	0.3~1.5	造成土0.8m	"
津島北 AV01~03,AT03			岡山市道本町津島東線拡幅に伴う 補償工事Ⅱ	0.7~1.5	造成土0.7~0.8m 東端で条里の名残?	"
津島北 BA14・16		文 法経	南側用水石積み改修	1.1	造成土内 陸軍の土塁カット	"
1991		津島南 BC26	事	外国人留学生会館 グリストラップ埋設	2.0	~GI-1.4m攪乱土 遺跡未確認
	津島南 BC18	遺	防火用水撤去	2.0	~基盤層, 8次調査隣接地	"
	津島北 AU09・10	工	雨水排水管補修	0.8~1.2	造成土内, 緊急	"
	津島南 BB04	教養	水道管破裂	1.1	造成土内, 緊急	"

1993年度活動のまとめ

年度	調査地区名	所属	調査名称	掘削深度(m)	備考	文献
1991	津島南 BC18	事	津島地区基幹配管整備(電気)	0.7	GL-0.5mで明治層上面	⑮
	津島南 BC10 津島南 BF04~07 津島北 AZ13~14 津島北 AW04・05	"	津島地区基幹ハンドホール整備(電気)	1.1~1.3	~近世層上面	"
	津島南 BB16	"	" ハンドホール アース板	1.7~1.8	遺跡未確認	"
	津島北 BD15	"	津島地区基幹整備(電気) アース板埋設	1.7	黒色土上面	"
	津島北 BA12・13	"	津島地区基幹整備(電気)電柱	0.9	造成土内, 連絡不備	"
	鹿田 CT44	医	水道管破裂	0.9	~近世層上面	"
	津島南 BC18	遺	遺伝子実験施設工事前フ	1.1	造成土内	"
	津島南 BA18, BC18	"	遺伝子実験施設電柱 設新営関連	0.6~0.9	~明治層	"
	津島南 BC18	"	" 作業用拡張部	0.8	~明治層	"
	津島南 BC18	"	" 地下室	4.0~5.0	調査終了面以下, 基盤無遺物層	"
	鹿田 BW~BZ45~49	"	医学部基幹整備 駐車場建設	0.3~1.0	~近世層上面	"
	鹿田 BK~BX43~54	"	" 水銀灯設置	1.0~1.5	GL-1mで近世層上面, -1.3mで 中世層	"
	津島南 BE・BF22	農場	有機物処理整備	1.1~1.4	造成土内	"
	津島北 AY・AZ14 AZ13・AX・AY16	文法 経	構内街灯設置	1.0~1.1	造成土内	"
	津島南 BC・BE・BF12	事	南北道路街灯設置	1.5	GL-1.4mで古代層確認	"
	半田山 AI03	農	高圧鉄塔周辺排水側溝敷設	0.4~0.7	GL-0.1mで地山	"
	半田山 A009, A012・13	農	自然教育研究林内排水整備	0.4~0.8	GL-0.1~0.2mで地山	"
	1992	津島南 BD18・19	遺	遺伝子実験施設ハンドボール設	0.7~1.5	GL-0.75m~-1.1m明治層上面 縄文後期層まで, 溝2本検出
津島南 BD18		遺	遺伝子実験施設機械室配線工事	0.95	明治層上面まで	"
津島南 BG12		事	仮設電柱設置	0.2	GL-1.1mで明治層上面	"
鹿田 BU65, BU~BC66 BC67~72, BW・BA71		ア	アイソトープセンター集水枡・ ヒューム管設置	0.5~1.5	GL-0.9mで明治層上面, 中世溝1 縄文後期層まで, 溝2本検出	"
津島南 BB10		事	保健管理センター付近樹木移植	0.6~0.8	GL-1.0mで明治層上面	"
津島北 AV09		工	ボイラー系給水管改修工事	1.2	GL-1.1mで明治層上面	"
津島北 AV12		事	附属図書館北側駐車場整備	3.0	造成土厚さ1.7m, 黒色土確認	"
津島南 BB・BD・BE12		事	下水道事業に関する地質調査	1.1~1.5	造成土厚さ1.1~1.4m, 明治層まで	"
鹿田 BB86~C184・87		医	動物実験施設西側環境整備	1.1~1.3	造成土厚さ1.1m, 近世層?まで	"
鹿田 CI66		医	テニスコート脇電柱埋設	1.2	造成土厚さ1.8m, 古代土器1点	"

※発掘・試掘調査については全てを, 立会調査については主要なもののみを対象としている。
文献番号は附表3・4に対応する。

附表3 埋蔵文化財調査室刊行物

番号	名 称	発行年月日
①	岡山大学構内遺跡調査研究年報1 1983年度	1985年2月28日
②	岡山大学構内遺跡調査研究年報2 1984年度	1985年3月30日
③	岡山大学津島地区小橋法目黒遺跡(AW14区)の発掘調査 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第1集	1985年5月7日
④	岡山大学津島地区遺跡群の調査Ⅱ(農学部構内BH13区他) 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第2冊	1986年3月31日
⑤	岡山大学構内遺跡調査研究年報3 1985年度	1987年3月31日
⑥	岡山大学構内遺跡調査研究年報4 1986年度	1987年10月31日

附表4 埋蔵文化財調査研究センター刊行物

番号	名 称	発行年月日
⑦	鹿田遺跡Ⅰ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第3冊	1988年3月31日
⑧	岡山大学構内遺跡調査研究年報5 1987年度	1988年10月31日
⑨	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第1号	1988年10月
⑩	鹿田遺跡Ⅱ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第4冊	1990年3月31日
⑪	岡山大学構内遺跡調査研究年報6 1988年度	1989年10月14日
⑫	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第2号	1989年8月
⑬	” 第3号	1990年2月
⑭	岡山大学構内遺跡調査研究年報7 1989年度	1990年11月20日
⑮	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第4号	1990年7月
⑯	” 第5号	1991年3月
⑰	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第6号	1991年8月
⑱	岡山大学構内遺跡調査研究年報8 1990年度	1991年12月10日
⑲	津島岡大遺跡3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第5冊	1992年3月31日
⑳	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第7号	1992年3月
㉑	岡山大学構内遺跡調査研究年報9 1991年度	1992年12月21日
㉒	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第8号	1992年8月
㉓	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第9号	1993年3月
㉔	鹿田遺跡3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第6冊	1993年3月31日
㉕	岡山大学構内遺跡調査研究年報10 1992年度	1993年12月20日
㉖	津島岡大遺跡4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第7冊	1994年3月31日
㉗	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第10号	1994年3月
㉘	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第11号	1994年10月